# I 設置の趣旨及び必要性

# 1. 設置の経緯

#### (1) 大学の沿革

名古屋学院大学は、明治 20 年 7 月に開校した「私立愛知英語学校」を前身とし、昭和 39 年 4 月に経済学部経済学科の単科大学として開設した。本学はキリスト教主義に基づく大学として、「あなたの神を畏れ、隣人を愛せよ」という「敬神愛人」を建学の精神に掲げ、広く社会に貢献できる人格と能力を備えた人材の育成、とりわけ中部圏の地域社会で活躍する「英語に強い経済人」の育成を社会的使命としてきた。

本学は、平成元年に外国語学部英米語学科、中国語学科(平成19年に中国コミュニケ ーション学科へ名称変更)及び留学生別科を、平成4年に商学部商学科を設置し、国際 的視野に支えられた人材を育成する文系総合大学としての礎を築いた。さらに、平成 12 年に経済学部政策学科、平成 15 年に商学部情報ビジネスコミュニケーション学科(平成 21年に経営情報学科に名称変更)、平成17年に外国語学部国際文化協力学科を順次設置 した。平成 18 年には、保健・医療・福祉分野の人材需要に対応し、人間健康学部人間健 康学科及びリハビリテーション学科を設置し、平成22年には、その教育内容を発展させ、 スポーツ健康学部スポーツ健康学科及びリハビリテーション学部理学療法学科を設置し た。さらに、平成25年に法学部法学科を設置し、現在の6学部10学科体制を確立した。 平成 9 年には、学部教育の実績を基礎に大学院を開設し、経済経営研究科経済学専攻 〔修士課程〕、同経営政策専攻〔修士課程〕及び外国語学研究科英語学専攻〔修士課程〕 の教育研究を開始した。本学大学院は昼夜開講制の採用とともに「さかえサテライト」を 設置し、今日まで多数の社会人大学院生を受け入れてきた。その後、平成 10 年に外国語 学研究科中国語学専攻〔修士課程〕、平成11年に経済経営研究科経営政策専攻〔博士後 期課程〕、平成 13 年に通信教育課程外国語学研究科英語学専攻〔修士課程〕、平成 20 年に同専攻〔博士課程〕、平成21年には外国語学研究科に国際文化協力専攻〔修士課程〕 を開設し、今日に至っている。

平成19年4月には、新たに名古屋キャンパス(名古屋市熱田区)を開設し、大学本部、経済学部、商学部、外国語学部及び大学院を移設し、さらに平成25年に法学部を設置した。瀬戸キャンパス(瀬戸市)におけるスポーツ健康学部、リハビリテーション学部と併せ、学部の特色に応じた2キャンパス体制で教育研究の発展に努めている。

名古屋学院大学はこれまでに人文科学、社会科学、体育、保健医療を中心とした教育研究体制を整備し、6 学部 10 学科及び留学生別科並びに大学院の 2 研究科 4 専攻を擁する総合大学へと発展してきた。学部卒業生 42,426 名、大学院修了生 1,104 名を輩出し、6 学部 10 学科(収容定員 5,120 名)に 5,328 名の学生が在籍(平成 26 年 4 月 1 日現在)しており、広く社会に貢献できる人格と能力を備えた人材の育成並びに中部圏を中心とした地域社会の発展に大いに貢献をしているところである。

# (2) 名古屋学院大学に国際文化学部を設置する経緯

前述したように、本学は開学以来「英語に強い経済人」の育成を使命に掲げ、大学教育の総合化を図ってきた。とりわけ、平成元年に開設した外国語学部(英米語学科・中国語学科)においては、外国語の運用能力を高めるとともに、その背景にある社会や文化などへの理解(異文化理解)を備えた国際性豊かな人材の育成を目的としてきた。そのうち、中国語学科(平成19年に中国コミュニケーション学科に名称変更)は、中国を主たる対象地域としつつ、広く世界に拡大している中国語圏及び華僑華人社会、さらには少数民族文化をも視野に入れた地域研究を基礎として、中国語の運用能力はもとより、中国語圏の歴史・文化・経済・ビジネス等に関する教育を行ってきた。また、平成17年に設置された国際文化協力学科は、国家間のボーダレス化が進展する中で、諸地域における人々との異文化間コミュニケーションを図り、共生と相互理解の立場に立って国際貢献できる人材を育成してきた。

他方、21世紀に入って、国際社会はあらゆる分野でグローバル化が進行し、また国内外での多文化接触・多文化共生に伴う多くの問題が生じつつある。このような状況の下、我が国においては「グローバル人材育成戦略」(平成24年6月)が指摘するように、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際的に活躍できる人材の育成が喫緊の課題となっている。そこで、名古屋学院大学は国際化教育の再検討を行い、外国語学部英米語学科における国際英語教育と並行して新学部を設置し、国際文化理解と国際文化協力に基づくグローバル人材養成を図ることとした。

#### 2. 国際文化学部設置の趣旨、理念及び目的

# (1) 名古屋学院大学国際文化学部の趣旨

グローバル化が進む 21 世紀は、地域的利害や宗教意識がもたらす様々な地域紛争を引き起こし、地球全体を不安定な状態に置きつつある。また、20 世紀に地球規模で顕在化した環境問題、世界を同時に巻き込むように進行する経済的混乱など、世界のあらゆる地域に暮らす人間が等しく地球人として協働し、持続可能な発展に対する妨げも山積している。それ故、様々な社会事情や国際関係、あるいは海外諸言語を個別に学ぶだけでは、真の国際性を有するグローバル人材となることは困難である。すなわち、国際社会の置かれた現状、それぞれの国・地域における文化のあり方や地域固有の生活、教育環境・歴史認識・文化遺産・宗教意識など多様な知識の集積が必要であり、かつ地域的課題やグローバルな諸問題を見出し、その実態を理解し、問題解決につなげる積極的な行動力も求められる。

本学が位置する愛知県は中部圏の中核をなし、人口 740 万人、事業所数 34 万 4 千を数える企業が集積している地域である(人口は平成 24 年現在、事業所数は同 21 年現在)。とりわけ愛知県の製造業は、平成 22 年工業統計によると、製造品出荷額等で 38 兆 2 千億円を超え 34 年連続日本一であり、我が国の製造業を牽引する重要な役割を担ってきた。

中部圏においては、国際的なマーケットで活躍する多数の企業が存在し、海外進出を希望する企業も増加の一途を辿っている。その一方で、中部圏は国内的に外国人就労者数の最も多い地域の一つでもあることから、多文化交流を意識的に促進する必要性がある。こうした地域の状況から見て、海外進出企業で活躍できる人材、自治体などで国際業務に対応できる人材、国際文化事業や国際協力事業を推進する人材へのニーズは今後ますます増大すると考えられる。

以上のような社会的要請に応えるために、本学は外国語学部における教育研究の実績を 踏まえ、新たに国際文化学部を設置する。国際文化学部は、優れた外国語運用能力ととも に、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力を通して、 グローバルに活躍する人材を育成する。既設の外国語学部英米語学科は、国際語である英 語を主たるツールとして、国際的場面で活躍できる人材の育成を今まで以上に明確にして いく。

# (2) 国際文化学部の理念と目的

国際文化学部の理念は、本学の社会的使命を継続的に果たすため、<u>広く世界の多様な文化を学び、世界が直面している地球環境の改変や異文化・異民族問題、あるいは宗教対立や政治的紛争が絶え間なく生じている現状に対応できる実践的な能力を有する人材を養</u>成することにある。国際文化学部は、その理念に基づいて以下の諸点を目的とする。

# ①グローバル社会に生起する様々な問題について的確に対応できる多文化理解と持続的 社会形成のための思考力・判断力・行動力を身に付ける。

グローバル社会における多くの地域文化にとどまらず、文化間の交流・融合・対立、異文化間交渉の歴史など、異文化に対する深い知識を獲得する。また、多文化社会に対する豊かな許容性と共働の精神を持ち、さらに共生社会に関する事象を他人に説明できる能力を身に付ける。さらに、国内外の国際協力の現状、有効性に関する見識を持つとともに批判的に思考し、問題解決に向けて具体的に行動する能力を身に付ける。

# ②グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性 を養う。

グローバルに展開する社会にあっては、経済問題や環境問題など広範な知識の体系の理解を必要とするものが少なくないため、現代人として不可欠な社会科学的知識や自然科学的教養を広範に身に付ける。優れた外国語運用能力に基づいて、日本の存在を海外に知らしめ、同時に国際的な文化情報を共有できる状況を作り出すことのできる個々人の能力を開発する。そのことは同時に、海外での国際協力活動や、国内での外国人支援活動を実践することにもつながり、多文化社会の持続的な発展や協働すなわちグローバルな共生を可能とする有為な人材の育成につながる。

# ③日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持た せる。

異文化・多文化を理解する原点は、自らのアイデンティティの確立にある。そのため本学部は日本理解教育を重視し、多文化という概念の中に拡散することなく、自らと多文化の関係性の上に共生社会を見据えることができるようにする。日本の歴史・文化及び現代社会の構造について学ぶとともに、日本の経済の特質などについても比較経済の視点で理解できるようにする。

# ④多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見 を十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。

国際共通語である英語の運用能力を高め、海外での国際協力活動に活かすことができる レベルを目指す。並行して、中国語、ドイツ語、フランス語又はスペイン語のいずれかに ついて、基本的な会話の運用能力を身に付ける。このように、深い異文化理解に基づいて、 海外滞在の適応力を養うとともに、日本国内で暮らす様々な外国籍者とのコミュニュケー ションや相互文化理解を図る。

このように、国際文化学部の扱う領域は、グローバル社会とは何かという大きな問題意識の下、国際社会の個別地域を対象とした歴史・文化を中心に、社会・政治・経済・宗教・環境など極めて多岐にわたる。そこで、国際文化学部は、「国際理解」及び「多文化交流」を中心に展開する国際文化学科と、「文化協力」及び「文化支援」を念頭に置いて国際文化理解教育を実践する国際協力学科の2学科体制とし、学修の方向性を明確に示すこととする。

#### a) 国際文化学科の目的

国際文化学科は、グローバル社会のそれぞれの地域に存在する多様な文化を学ぶことを通して、グローバル社会に生起する様々な問題について的確に対応できる多文化理解と共生可能な持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力を身に付けさせる。 さらに、日本文化の基礎を確実に身に付け、多文化理解における比較文化の視点を明確に持たせることを目標とする。また、日本と歴史的にも地政学的にも関係が深く、いまも相互交渉において様々な問題を抱えている中国・韓国を中心としたアジア諸国との関係構築に貢献できる人材の育成も視野に入れる。

# b) 国際協力学科の目的

外国語学部国際文化協力学科の実績に基づき、<u>国際協力学科は、グローバルに展開する</u>地域固有の文化・社会・経済・宗教などの現状を理解し、個別地域社会や多文化社会との

積極的な交流を通して、地球レベルでの持続的文化発展に貢献する豊かな教養と人間性を 養い、国際文化協力の担い手を育成することを目的とする。国際協力に関する教育の視点 には多様な分野・方法が包含されるが、本学科では生活文化という側面を重視し、国際社 会で共有可能な生活文化・生活環境・教育観などに基礎づけられた文化協力・文化交流を 主軸にした国際協力実践を教育の中心に据える。

# (3) 国際文化学部が教育・研究の対象とする分野

国際文化学部は、学位分野「文学関係」に基づく専攻分野に対応し、「宗教学」「歴史学」「言語学」「文学」「文化人類学」及び「比較文化学」を中心とした教育研究を行う。 また、これらと関連する学問分野として、「国際関係」「社会学」「環境生態学」の側面からも、グローバル化が進展する国際社会にアプローチする。

# 3. 養成する人材像

国際文化学部の理念・目的に基づき養成する人材像を、卒業後の進路に即して述べると次のとおりである。

# (1) 国際文化学科が養成する人材像

# ①広くグローバル文化を学修し、国際的視野に立つ企業や機関等で活躍する人材

実践的な外国語運用能力を備え、文化・歴史・社会・政治・経済などの広範な知識を基 に、グローバルな視点で多文化社会を理解し、国際的な場で活躍できる人材を養成する。 将来の進路は、一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力を必要とする企業、行政機関などが想定される。

#### ②激動し、国際力を強めるアジア地域を中心とした国際社会で活躍できる人材

グローバル時代のアジア地域における日本の位置を自覚し、国内外における多文化社会、 多文化共生・協働を正しく見据え、アジアを中心とした国際社会で活躍できる人材を養成 する。将来の進路は、一般企業、アジアを中心に展開する国際企業、観光・航空・流通な どの企業、行政機関などが想定される。

#### (2) 国際協力学科が養成する人材像

## ①国際理解に基づく文化協力の担い手として活躍する人材

国際理解・多文化交流のあり方を自覚的に考察する能力に基づき、多様化し、格差を拡大している現実のグローバル社会における文化協力を行う人材を養成する。将来の進路は、観光・流通・航空業などを中心とした民間企業を想定している。とりわけ、アジア諸国との関係が深い企業活動や、アジアを中心とした国際協力活動に従事する機関や団体での活躍が期待される。

# ②国際文化支援の実践者として活躍する人材

国際理解・多文化交流のあり方を自覚的に考察する能力に基づき、積極的な国際支援活動への参画を目指す人材を養成する。将来の進路は、国内における国際協力事業のみならず、国際的活動をしている NGO・NPO、国際公務員などを想定している。

#### 4. 国際文化学部設置の必要性

# (1) グローバル化する世界と拡大する日本の責務に対応した国際化教育・研究の必要性

すでに繰り返し述べてきたように、21 世紀はグローバル化が一段と進展し、個別国家や民族の枠組みだけで世界理解をすることが極めて困難になった。経済や企業活動は急速にボーダレス化し、さらに多様な人的交流を通して、日本の多くの都市が多民族、多文化と接触する機会に恵まれた個性的な国際都市となりつつある。他方で日本の青年層にあっては、身近で小さな社会的関係の中に留まり、外へ目を転じることから背を向けてしまう傾向が増大しているとも言われる。国際文化学部はこのような社会的要請に対応するため、海外協定校への留学制度や教員の在学研修制度の実績に基づき、グローバル化に対応する国際教育・研究を拡充させる。

# (2) グローバルに活動する企業や公益事業に携わる国際性豊かで柔軟な思考力・判断力 及び行動力を備えた人材を養成する必要性

日本は他国と陸上の国境線を持たない世界でも数少ない国家である。また、資源・食料の多くを海外に依存しており、現在の日本人の豊かな生活を持続するためには国際的な協調と諸外国への積極的な支援活動が不可欠である。グローバル化の潮流は企業活動にとどまらず、国際社会の仕組み全体に大きな影響を及ぼし、多様な国際交流事業、政府開発援助、学術・文化支援活動など公益性の高い国際活動の必要性が高まりつつある。学士課程教育段階において、こうした需要に応える国際文化支援や国際協力に関する人材育成が急務となっている。本学の国際文化学部は、豊かな教養とコミュニケーションを備え、国際性豊かで柔軟な思考力・判断力及び行動力を身につけた人材を養成することで、これらの課題に応えていく。

#### (3) 地域社会からの要請と地域への貢献

大学創設以来、メインキャンパスの置かれた瀬戸市における社会的貢献は、行政との提携による教育改革、都市計画・都市政策、産業観光、地場産業研究、愛知万博推進など総合的な政策提言・策定などを通して、本学の地域連携活動として高い評価を得てきた。平成19年度の名古屋キャンパスの開設後はさらに名古屋市との広範な連携と地域活動への参画など、さらなる地域貢献の実を結びつつある。

本学の名古屋キャンパス及び瀬戸キャンパスは歴史的地区の中に位置することから、その立地を活かして、日本の歴史・文化に関する地域の生涯学習ニーズに対し、今まで以上

に応えることが可能である。また、日本を取り巻く諸外国からの情報を地域社会に向けて発信する拠点としても国際文化学部は有効な組織となる。同様に、本学外国人留学生、地域の外国人居住者及び中部圏への旅行者・業務訪問者などに対する文化紹介や体験学習を提供することもできる。

# (4) 時代的ニーズへの応答と社会貢献への対応及び教育機能の拡充

名古屋学院大学は開学以来、経済学、商学、法学、外国語学、スポーツ・健康、医療の教育を通じて、広く社会に貢献できる人格と能力を兼ね備え、とりわけ中部圏を中心とした地域社会で活躍できる人材の育成をその社会的使命としてきた。このたび本学は、新たに国際文化学部を設置することでグローバル化が進展する社会ニーズに応えるともに、既存学部が有する資源を補完的に活用し、双方向的な連携を図ることによって、より横断的な教育を展開できると結論した。

# Ⅱ 学部・学科の特色

グローバル社会が求める学士像とは、多様な文化・宗教が生じる摩擦や、政治・経済面の現実的課題を的確に判断する知識を持ち、課題の解決に向けて積極的に行動する人材である。国際文化学部は、そのような要請を受け止め、中央教育審議会の提唱する「総合的教養教育」を基盤とした「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担い、特色としていく。 国際文化学科は異文化理解と多文化交流・多文化共生の実践を目標に、多様な文化の現状と変容の過程をグローバルにとらえることを重視する。国際協力学科は異文化理解と相互交流を基礎とした国際協力・国際支援とりわけ文化協力活動に力点を置いた教育活動プログラムを展開する。

# 1. 多彩な基礎的教養とバランスのとれた専門教育プログラム

本学は全学の統一的な教養教育カリキュラムとして、建学の精神に基礎づけられた「NGU教養スタンダード科目」を設置している。このプログラムを通して学生たちは、4年間の学びの中で多彩な教養科目に触れるとともに、学士課程に相応しい社会的行動力を身に付け、自己発見と社会の要請する問題へのアプローチを試みることになる。こうした教養教育は、異文化理解と多文化交流、さらには国際協力を学ぶ学生に不可欠のものであり、その上に学部の専門教育プログラムを構築している。

# 2. 現実社会に対応した国際的視野と行動力を備えた人材育成プログラム

本学部では、日々刻々と変化する世界の動きに連動した教育を実践し、毎年度のシラバスでその内容を明示する。さらに、海外経験や多文化交流体験に関する実践的プログラム

を1年次から用意し、その成果を適正に評価して単位化することで、積極的に行動できる 学生を育てる。とりわけ、発展途上国における地域研究や文化協力・支援活動の実績が豊 富な教員を揃え、中国・東南アジア・南アジア・オセアニア・中南米など多くの地域を網 羅する。また、ヨーロッパ文化や日本の歴史文化の専門家を配置することで、グローバル な視点での文化・社会の教育に支障がないように配慮している。

# 3. コミュニケーション能力の開発と多文化共生への理解力を醸成する教育プログラム

多文化共生の時代を生き抜き、牽引する人材となるためには、優れたコミュニケーション能力が要求される。本学部では国際共通語としての英語教育にとどまらず、中国語、ドイツ語、フランス語又はスペイン語を選択必修とするとともに、フィールドワークや留学プログラムを連動させることで、コミュニケーション能力の開発と多文化共生への理解力を醸成する。

# 4. 日本の文化や歴史を正しく理解し、伝える日本研究プログラム

国際的な視野を持って活躍するためには、自己の存在とそれを支えている日本社会の歴史、文化、芸術・芸能、社会構造などにも精通していることが望まれる。本学部では広範な視野から「日本」を学ぶとともに、国内におけるフィールドワークなどを通して実践的に理解し、海外や多文化世界に対する発信力を養う。

# Ⅲ 学部・学科の名称及び学位の名称

本学部・学科の設置の趣旨は、急速にグローバル化しつつある国際社会の実情に鑑みて、積極的に国際社会に関わり、多様な文化や経済社会のあり方を理解し、異なった生活様式、思考、慣習、宗教、言語などを有する国家・民族集団あるいは地域を構成する社会集団などが多様かつ多相に世界を構成することを理解し、加えてそのような国際社会の安定的・持続的な維持・発展に参画できる人材を養成することにある。そのような趣旨から、本学部を表現する代表的なキーワードは「国際文化」である。とりわけ国際文化学科では、「国際文化」をグローバルな視点あるいは日本アジア地域に焦点を当てた視点から教育課程を構成している。また国際協力学科においては、「国際文化」理解を基礎としつつ、日本から発信する「文化協力」や「文化支援」の理論や現状、これからあるべき方向性などについて学修することを目的としている。

したがって、本学部の名称は「国際文化学部」(Faculty of Intercultural Studies)とし、 学科の名称は「国際文化学科」(Department of Intercultural Studies)及び「国際協力学 科」(Department of International Cooperation Studies)とする。また、学位名称は国際 文化学科及び国際協力学科ともに「学士(国際文化)」(Bachelor of Intercultural Studies) とする。学部学科の設置の趣旨からも理解されるとおり、国際文化学部に設置される 2 学科は、いずれも「国際文化」学修の基礎の上に成立するカリキュラムを持ち、とりわけ国際協力学科においても国際政治や国際経済あるいは特定の技術協力などに重点を置くのではなく、あくまでも「文化」に関わる協力・支援を中心に教育プログラムが構成されている。したがって、国際文化学科及び国際協力学科の両学科において授与すべき学位名称は、「学士(国際文化)」(Bachelor of Intercultural Studies)とする。

学部及び学位の名称について、それぞれ上記の英語名称を付した。"Intercultural Studies" という英語名称は、これまでも国際文化教育を行っている大学等において使用されており、国際的にも本学の意図する教育内容を十分に理解せしめる英語名称である。また国際協力学科の英語名称"International Cooperation Studies"は、我が国における国際協力事業で用いられる"International Cooperation"を踏襲するものであり、広く文化協力活動を包含していることから、国際協力学科の教育内容を"International Cooperation Studies"という英語名称で明示することが適当である。これらの英語名称については国際理解教育等の場面で通常用いられており、国際的にも通用性がある。さらに英語を母国語とする本学教員の判断においても国際的通用性があることを確認している。

# IV 教育課程の編成の考え方及び特色

#### 1. 教育課程編成の考え方

国際文化学部は、建学の精神である「敬神愛人」に基づき、優れた外国語運用能力とともに、多文化間の相互理解と交流、さらには文化的支援に主力を置いた国際協力を通して、グローバルに活躍する人材を育成する。本学部が学生に修得させる能力は「2. 国際文化学部設置の趣旨、理念及び目的」で記載したとおりであり、以下のようにまとめることができる。

- ○グローバル社会に生起する様々な問題について的確に対応できる多文化理解と持続的 社会形成のための思考力・判断力・行動力を身につける。
- ○グローバルに展開する社会・経済・文化の持続的発展に貢献する豊かな教養と人間性を 養う。
- ○グローバル社会に対応するために、日本文化の基礎を確実に身につけ、多文化理解にお ける比較文化の視点を明確に持たせる。
- ○多様な文化的世界において、自己の考え方を相手に正しく説明し、また、相手の意見を 十分に理解するコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付けさせる。

これらの能力を修得させるため、国際文化学部の教育課程を『NGU 教養スタンダード科 目』『学部共通科目』『学科専門科目』から編成しており、各科目区分の設定の理由を以 下に説明する。

# ①NGU 教養スタンダード科目

建学の精神「敬神愛人」に基づき、国際文化学部の教育目的である<u>「豊かな教養と人間性」「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」を主に担うのが『NGU教養スタンダード科目』</u>である。この科目群は全学共通のものであり、学士課程教育における基礎力を身に付けるため、広範な教養的知識と現代社会で生き抜く力を支える科目を揃えている。

# ②学部共通科目

学部目的における<u>「多文化理解」「日本理解」「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」を主に担うのが『学部共通科目』</u>である。特に、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を養成するための「国際コミュニケーションスキル」分野を充実させ、45 科目を用意している。「国際理解科目」分野においては、国際文化及び日本文化を理解するための基本科目を設置し、特定の文化理解や協力事業などに偏重せず、広く国際社会を見通せる人材を育成することを目標とする。

# ③学科専門科目

『NGU 教養スタンダード科目』及び『学部共通科目』の学修に基づき、<u>「豊かな教養と人間性」の上に、「多文化理解」「日本理解」「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」「持続的社会形成のための思考力・判断力・行動力」を総合的に養う</u>ことを目的としている。

『学科専門科目』は、学科専門領域のコアをなす「学科基幹科目」、専門基礎の学修に 基づき専門性を高める「展開科目」、少人数での討議やプレゼンテーションを各年次で繰 り返し卒業研究をまとめる「演習科目」、「関連科目」及び「留学単位振替科目」で構成 される。

## 2. NGU教養スタンダード科目

この科目群は、全学的な視点から成熟した市民としての基礎的素養を身に付けさせることを目的とし、『キリスト教』『自己理解と自己開発』『社会的教養』『言語とコミュニケーション』『情報理解』及び『教職』という 6 つの大きなカテゴリーから編成される。さらに、『社会的教養』の中には、以下のように7つのテーマ領域が置かれている。

#### (1) キリスト教

本学の建学精神「敬神愛人」が拠りどころとするキリスト教及びその周辺領域について学ぶことを目的とする。キリスト教の教えはもちろんのこと、人間、歴史、社会及び生命などとの関わりにおいても幅広くキリスト教を理解し、豊かな人間性と幅広い世界観を涵養することを目的とする。1年次と2年次以降にそれぞれ6科目12単位が配置され、1年次の「キリスト教概説」及び「キリスト教学」を必修とする。

# (2) 自己理解と自己開発

自分の将来や進路を見据えた自己理解や自己開発を促すことで、職業観や仕事観の形成、あるいはキャリア形成に対する意識の向上を目指す科目群である。「基礎セミナー」「キャリアデザイン」「ボランティア」及び「インターンシップ」に関する科目が計 12 科目配置されている。1 年次前期の「基礎セミナー」を必修科目とし、全学共通のテキストを用いて、本学の歴史、大学での学修の進め方、文章・レポート作成、プレゼンテーションなど、大学への導入教育を進める。また、「キャリアデザイン」は、1 年次前期から 3 年次後期にかけて 6 科目を用意し、段階的にキャリア教育を行い、就職活動や将来の進路に備える。

#### (3) 社会的教養

この科目群は、グローバル社会を生き抜く上で基礎となる幅広い教養を修得することを目的とする。学部の専門分野を念頭に置きながらも、全学的な視点から特定の分野に偏ることなく幅広い教養科目が配置され、学部専門科目における学修の基礎づくりとなるものである。この『社会的教養』は、〔人間理解〕〔社会理解〕〔自然理解〕〔歴史文化理解〕〔環境理解〕〔身体理解〕及び〔地域理解〕という7つのテーマ領域から編成され、12単位を選択必修とする。それぞれのテーマ領域における主な科目は以下のとおりである。

人間理解 : 「哲学」「日本文学」「心理学概論」「宗教と人間」「キリスト教人間学」など

社会理解 : 「日本国憲法」「現代社会と経済」「国際関係論入門」「平和学入門」など

自然理解: 「数学」「基礎統計学」「化学」「地球科学概論」「生物学」「人類学」など

歴史文化理解:「日本史」「日本思想史」「英米文化入門」「文化人類学入門」「世界史」

「陶芸論」など

環境理解 : 「環境科学」「生態学」「地球環境学」

身体理解 : 「健康の科学」「スポーツの科学」「スポーツ初級 A・B」「スポーツ中級 A・B」

「スポーツ上級 A・B」

地域理解 : 「地域商業まちづくり学」「歴史観光まちづくり学」「減災福祉まちづくり学」など

[地域理解]には、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業)の一環として全学的に地域理解を促進するための科目が7つ配置されている。

#### (4) 言語とコミュニケーション

この科目群は、グローバル化した現代社会に対応し、多文化理解のためのコミュニケーション能力を養うことを目的としている。1 年次から「日本語表現」「基礎英語  $1\cdot 2$ 」「英会話  $1\cdot 2$ 」「入門ドイツ語  $1\cdot 2$ 」「基礎ドイツ語  $1\cdot 2$ 」「入門フランス語  $1\cdot 2$ 」「基礎フランス語  $1\cdot 2$ 」「入門スペイン語  $1\cdot 2$ 」「基礎スペイン語  $1\cdot 2$ 」「入門中国語  $1\cdot 2$ 」「基礎中国語  $1\cdot 2$ 」「入門韓国語  $1\cdot 2$ 」及び「手話入門」など 28 科目(30単位)が開講される。このうち、1 年次の「日本語表現」「基礎英語  $1\cdot 2$ 」及び「英会話  $1\cdot 2$ 」の 5 科目(6 単位)を必修とするとともに、第二外国語としてドイツ語、フランス語、スペイン語又は中国語から 1 言語  $\cdot 4$  科目(4 単位)を選択必修とする。

#### (5)情報理解

「情報処理基礎」を 1 年次必修科目として配置し、高度情報化社会に適応するため、パソコンを用いた情報処理を行う際に必要とされる基礎知識と基本技法を修得する。

# (6) 教職

中学校及び高等学校の教員免許状の取得を目指す者のために、教育職員免許法における <教職に関する科目>を共通開設している。「教職論」「教育原理」「教育心理学概論 1・ 2」及び「教育制度論」など 10 科目 20 単位が配置されている。

#### 3. 学部共通科目

学部共通科目において、<u>『国際コミュニケーションスキル科目』は、多様な文化的世界におけるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を獲得するものである。また、</u><u>『国際理解科目』は、日本文化の理解に基づき多文化を理解し、グローバル社会の様々な問題に的確に対応できることを目的とする。</u>

『国際コミュニケーションスキル科目』には、国際共通語としての英語の段階的な学習に沿った科目を 11 科目(11 単位)設置している。また、国際的に重要な言語のうち「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」は 6 科目(6 単位)ずつ、「中国語」については 12 科目(12 単位)を設置し、 $2\cdot 3$  年次を中心に配当している。「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」又は「中国語」のうち 6 単位を選択必修とし、NGU 教養スタンダードと併

せて 10 単位分を修得させる。さらに、アジア諸語の入門科目、現代社会で必須の「コンピュータ技法」に関する科目が配当されている。

『国際理解科目』には、国際文化・国際社会を理解するための基本的な科目を配置している。とりわけ、グローバル時代の国際文化の概念とあり方を考察する「国際文化論」及び、国際文化を学ぶ前提となる日本文化の特質を理解する「日本文化論」を 1 年次必修とする。また、選択科目として、本学の建学の精神に連なる「キリスト教文化論 1・2」のほか、「グローバル社会文化論」「日本史概説」「比較宗教論」「国際環境論」などを 1・2年次に8科目(16単位)開講する。これにより、国際的な理解・交流・協力・支援のマインドを身に付け、学科専門科目の学修を効果的なものとする。

#### 4. 国際文化学科専門科目

#### (1)科目区分の考え方

国際文化学科の『学科専門科目』は、『学科基幹科目』『グローバル文化展開科目』『日本アジア文化展開科目』『国際協力関連科目』『演習科目』及び『海外留学振替科目』から構成される。国際文化学科では、『学科専門科目』において、以下で示すようにとりわけ「国際文化理解」「国際文化交流」の学修を目標とする。

- ○豊富な地域文化理解科目により日本および国際文化の多様な実情を理解する分野。
- ○多文化理解、国際社会における文化的対立の構造と解決に必要な学修分野。
- ○ヨーロッパを中心とする文化圏とアジア文化圏、さらにはそれらの歴史的諸関係で形成された文化圏など、国・地域という概念を超えた世界の認識方法についての理解とそれに基づく国際的文化活動への理解と参画に必要な学修分野。

#### (2) 学科基幹科目

『学科基幹科目』は「国際文化理解」「国際文化交流」の学修の根幹をなす重要な科目を厳選している。国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1・2 年次必修科目の「英語演習 1~6」を設置し、『NGU 教養スタンダード科目』『国際コミュニケーションスキル科目』と有機的に連動した外国語教育体系を構築している。これらは国際文化を学修するための基本的なスキルであり、同時に 2 年次必修科目の「異文化コミュニケーション論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化理解・国際交流を推進させるための学習体系となっている。また、「比較文化社会論 1」を 2 年次必修とし、ヨーロッパの文化・社会と日本文化・社会のあり方を比較考察する。このほか、選択科目として以下の 13 科目を 1・2 年次に配当している。

「比較文化・社会論 2」「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「東西交渉史」「観光文化論」「現代芸術論」「メディア文化論」「情報文化論」「多文化教育論」「人間行動論」「比較認知科学」「比較社会心理学」「現代経済入門」

# (3) グローバル文化展開科目

『学科基幹科目』の学修と並行して『グローバル文化展開科目』及び『日本アジア文化展開科目』が配置され、学生は適切な履修モデルを参照しつつ、広範な文化体系の中から各自の専門的分野を選択する。それは「地域」ベースの選択と「文化の理論や構造」の選択的学修によって構成される。『グローバル文化展開科目』は、アメリカ、ヨーロッパをはじめ世界を構成する現代の文化圏について、地域的文化・宗教・生業等の多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解するとともに、文化の成立・変容・地域化などを学ぶことを目的とする。2・3年次の選択科目として以下の21科目を配置している。

「アメリカ社会文化論」「アメリカ政治経済論」「英米文学概論 1」「英米文学概論 2」 「英米文学講義 1」「英米文学講義 2」「英文学史」「米文学史」

「ヨーロッパ文化総論」「ヨーロッパ地域文化論 A」「ヨーロッパ地域文化論 B」「ヨーロッパ地域文化論 C」「地中海文化圏論」「日欧交流史」「環太平洋地域文化論」「イスラム文化圏論」「文化変容論」「マイノリティ論」「比較文化行動論」「グローバル経済論」

# (4) 日本アジア文化展開科目

この科目区分は、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に理解するとともに、中国文化圏をはじめとしたアジア諸国の歴史と現状を学ぶことを目的とする。2・3年次の選択科目として以下の16科目を配置している。

「日本文化史」「日本の思想」「日本の民俗学」「日本社会論」「日本地域史論」 「日本アジア交流史」「現代中国事情」「中国文化社会論」「韓国文化社会論」 「現代アジア文化社会論」「南アジア文化社会論」「日中関係論」「中国社会経済論」 「日本のポップカルチュアとアジア」「アジアの商習慣」「アジア就業事情」

# (5) 国際協力関連科目

国際協力学科開設科目のうち「国際協力関連科目」として選択 6 科目を設置し、本学科の教育目標である国際文化理解・国際交流をさらに一歩進めた国際協力の視野を修得させる。

#### (6) 演習科目

本学では、1年次から卒業まで演習科目が必修として配当されている(1年次においては NGU 教養スタンダードの枠組みで設置されている)。2年次に配当される「国際文化基礎演習 1・2」では国際文化研究の基礎を学び、3・4年次に配置されている「国際文化演習」では担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修を行う。また、「国際文化理解実践論 1・2」において国際場面における実践的学習の方法と実践後

のプレゼンテーションを学び、国内及び海外で実施されるフィールドワークや短期研修 での体験と有機的に結合させるようにプログラム化されている。

#### (7)海外留学振替科目

本学での事前事後学習に基づき、夏季・春季休暇中に海外協定校で語学研修等を受講し一定の評価を得た学生に対して、「海外事情 1」「同 2」「同 3」「同 4」のいずれかの単位を付与する。

#### 5. 国際協力学科専門科目

#### (1)科目区分の考え方

国際協力学科の『学科専門科目』は、『学科基幹科目』『国際文化協力展開科目』『国際文化支援展開科目』『国際文化関連科目』『演習科目』及び『海外留学振替科目』から構成される。国際協力学科では、『学科専門科目』において、以下で示すようにとりわけ「国際文化協力」「国際文化支援」の学修を目標とする。

- ○文化交流を基礎にした国際協力のあり方を理解するとともに、国際的な場における協力 とは何かを実践的に学修するための分野。
- ○国際社会における文化支援の実態を学修し、日本の果たすべき役割を考究する能力を身 に付けさせるための学修分野。
- ○とくに発展途上国を中心に現地学習をもとに課題を発見し、問題解決に必要な自己の行動のあり方を学修させるための実践的分野。

#### (2) 基幹科目

『学科基幹科目』は「国際文化協力」「国際文化支援」の学修の根幹をなす重要な科目を厳選している。国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1・2 年次必修科目の「英語演習 1~6」を設置し、『NGU 教養スタンダード科目』『国際コミュニケーションスキル科目』と有機的に連動した外国語教育体系を構築している。これらは国際文化を学修するための基本的なスキルであり、同時に 2 年次必修科目の「国際関係論」及び「国際協力論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化協力・国際文化支援を推進させるための学習体系となっている。このほか、選択科目として以下の7科目を1・2 年次に配当している。

「国際文化支援論」「国際地理論」「開発社会学」「文化交流論」「国際社会学」 「マイノリティ論」「ジェンダー論」

# (3) 国際文化協力展開科目

『学科基幹科目』の学修と並行して『国際文化協力展開科目』及び『国際文化支援展開

科目』が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援 体系の中から各自の専門的分野を選択することになる。それは個別の「地域」への文化協力・支援もしくは国際協力方法論としてそれぞれの学生の学習課題となり、学年進行に伴い専門的課題研究へと結実していく。

『国際文化協力展開科目』は、国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学ぶことを目的とする。 2・3年次の選択科目として以下の11科目を配置している。

「国際移民論」「日中関係論」「アジア政治論」「国際機構論」「平和学」 「農村発展論」「アジア経済論」「国際企業論」「文化変容論」「アジア地域研究 1」 「アジア地域研究 2」

# (4) 国際文化支援展開科目

この科目区分は、特に開発途上国の支援を念頭に据え、開発途上地域の実情を理解し、 支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学ぶことを目的とする。2・ 3年次の選択科目として以下の9科目を配置している。

「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「異文化コミュニケーション論」 「多文化教育論」「世界遺産と保全」「国際環境文化論」「国際人権論」 「比較地域生活史」「企業文化論」

#### (5) 国際文化関連科目

国際文化学科開設科目を中心に「国際文化関連科目」として選択 20 科目を設置し、本学科の教育目標である国際文化協力・国際文化支援を支えるべき広範な国際文化の視野を習得させる。

#### (6) 演習科目

「演習科目」は1年次から卒業まで必修として配当されている(1年次においては NGU 教養スタンダードの枠組みで設置されている)。2年次に配当される「国際協力基礎演習  $1\cdot 2$ 」では国際協力・支援の基礎を学び、 $3\cdot 4$ 年次に配置されている「国際協力演習」では担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修を行う。また、「国際協力実践論  $1\cdot 2$ 」では、国際場面における実践的学修の方法と実践後のプレゼンテーションを学び、海外でのスタディー・ツアーの学修と有機的に結合させるように配慮している。なお、スタディー・ツアーの詳細については、「IX 実習について」で説明する。

# V 教員編成の考え方及び特色

# 1 専任教員編成の基本方針

国際文化学部の教育理念は、日本文化に立脚する多文化理解、豊かな教養と人間性、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を備えて、持続的社会形成のために思考・判断・行動する人材の育成にある。教員編成にあたっては、教育理念を実現するのにふさわしい十分な教育・研究業績を有した教員を揃えるとともに、主要科目に専任教員を配置することを基本方針とする。

# 2 専任教員数

専任教員数は、本学部の教育目標を確実かつ持続的に達成できるようにするために、国際文化学科入学定員 100 名(収容定員 400 名)に対して 14 名を、国際協力学科入学定員 50 名(収容定員 200 名)に対して 9 名を、学部全体としては総計 23 名を配置する。

# 3 専任教員の配置

本学部の教育課程は、『NGU教養スタンダード科目』『学部共通科目』及び『学科専門科目』から構成される。専門科目には、言語コミュニケーション、日本文化、地域文化、人間理解、多文化理解、国際協力の各専門分野の教育実績及び研究業績を有する専任教員を配置する。とりわけ主要科目については、大学設置基準第10条に基づき、教授又は准教授が担当する。なお、専任教員のうち博士学位取得者は9名である。

# (1) NGU教養スタンダード科目

1年次必修科目の「基礎セミナー」について、国際文化学科は専任教員14名全員を、国際協力学科は専任教員9名のうち7名を配置し、2年次以後の専門科目でも引き続き少人数の演習教育を行う。建学の精神に基づく人間教育を担うため、必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」には、博士学位を持ち研究業績の豊富な国際文化学科の講師1名を配置する。

このほか、国際文化学科では専任教員の専門分野に対応して、「日本史」「中国文化入門」「入門中国語」などに教授を配置するとともに、「社会学入門」「文化人類学入門」「世界史」などに准教授又は講師を配置している。国際協力学科では、「国際関係論入門」「国際政治学」「現代社会と教育」「生態学」などに教授を配置するとともに、「基礎英語1・2」「入門中国語1・2」「世界史」に准教授又は講師を配置している。

# (2) 学部共通科目

必修科目である「国際文化論」「日本文化論」並びに主要科目の「グローバル社会文 化論」「日本史概説」「国際環境論」に教授を配置している。また、「ドイツ語」「フ ランス語」「中国語」及び「コンピュータ技法」に教授又は准教授を配置している。

#### (3) 学科専門科目

#### ①国際文化学科

『学科基幹科目』の必修科目である 6 科目の「英語演習」並びに「異文化コミュニケーション論」及び「比較文化・社会論 1」に教授を配置するとともに、「比較文化・社会論 1」「東西交渉史」「情報文化論」などに准教授又は講師を配置している。

また、『グローバル文化展開科目』における「ヨーロッパ文化総論」「日欧交流史」及び「比較文化行動論」、並びに『日本アジア文化展開科目』における「日本文化史」「日本の思想」「日本地域史論」「日本アジア交流史」及び「中国社会文化論」などの主要科目には教授を配置している。さらに、2年次から4年次まで必修の演習科目「国際文化基礎演習1」「国際文化基礎演習2」及び「国際文化演習」には専任教員全員を配置する。

# ②国際協力学科

『学科基幹科目』の必修科目である「国際関係論」並びに主要科目の「開発社会学」「文化交流論」及び「マイノリティ論」に教授を配置するとともに、必修の「英語演習」には講師を配置する。「国際協力論」「国際社会学」「ジェンダー論」には、博士学位を持ち研究業績の豊富な講師を配置する。

また、『国際文化協力展開科目』における主要科目の「文化変容論」「アジア地域研究 1」に教授を、「国際移民論」「日中関係論」「国際企業論」などに准教授又は講師を配 置する。『国際文化支援展開科目』の主要科目である「多文化共生社会論」「多文化教育 論」「世界遺産と保全」「国際環境文化論」「比較地域生活史」には教授を配置している。 さらに、2年次から4年次まで必修の演習科目「国際協力基礎演習1」「国際協力基礎演 習2」「国際協力演習」には専任教員8名を配置する。

# 4 専任教員の職位及び年齢構成

専任教員23名の内、教授は12名、准教授は3名、講師は8名である。年齢構成は、本学部設置時に60歳代6名、50歳代8名、40歳代6名、30歳代3名であり、完成年度においては、60歳代8名、50歳代8名、40歳代6名、30歳代1名となる。

本学の教員定年は70歳であり、完成年度前に定年年齢に達する教員はいない。国際文化学部設置に係る教員人事の決定機関は「名古屋学院大学学部設置実行委員会」(議長を理事長とし、委員は学内常任理事・学部長で構成)であり、その決定に基づき完成年度まで専任教員数23名を維持することができる。(資料1:学校法人名古屋学院大学教員定年規程) さらに本学部の教育目標を持続的に達成するために、本計画の組織が継続的に確保されるとともに、教育理念や学部教育の経験を完成年度以後も継承することを念頭に置き、年齢構成バランス及びに留意した教員配置を進める。

# VI 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

# 1. 教育方法

#### (1) 多様かつ系統的な学修

国際文化を総合的に学習するために、国際理解・国際交流・国際協力・国際支援の各カテゴリーに沿って科目を配置した。さらに、国際文化教育の前提として日本文化の学習体系を整えている。また、国際コミュニケーションのスキルとしての語学教育、コミュニケーション実践力、プレゼンテーション能力などを開発させるために、『NGU教養スタンダード科目』『学部共通科目』『学科基幹科目』を連携させた語学カリキュラムを整備し、学年進行に合わせた学習が可能となるように配慮している。

# (2) フィールド実践と連動した教育体系

国際文化理解や国際文化協力に関わる学修は座学だけで完結させることができない。本学部の教育プログラムでは、海外のスタディー・ツアーや短期留学、国内におけるフィールドワークを通して、体験的教育機会を持つように学生に働きかけるとともに、フィールド実践を補完する講義を前後の開講期に配当して、理論と実践、座学とフィールド経験が一体となるように配慮している。

# ①国際文化学科における科目「フィールドワーク」(選択科目)

国際文化を学修する前提として国際文化学科では日本の歴史や伝統文化、さらには日本的景観の学修を重視しているが、それらを座学やビジュアル教材だけでリアルに受容させることは容易ではない。そこで国際文化学科においては日本国内におけるフィールドワークをカリキュラムの正規科目として実施する。

#### ②国際協力学科における科目「スタディー・ツアー」(選択科目)

スタディー・ツアーは本学部の基礎となる国際文化協力学科において実施されてきたプログラムを整理再編したものを基礎として構築する。スタディー・ツアーは、国際協力学科学生のうちの参加希望者を組織し、海外の特定地域における短期滞在型現地体験調査学習活動(原則夏季休暇中、本学国際センターが実施する短期留学プログラムの一環である)とその事前学習(前期)及び事後学習(後期)からなる。

# ③短期留学(国際文化学科、国際協力学科共通)

本学での事前事後学習に基づき、夏季・春季休暇中に海外協定校で語学研修等を受講し一定の評価を得た学生に対して、「海外事情1」「同2」「同3」又は「同4」のいずれかの単位を付与する。今後は、在日本コロンビア共和国大使館の協力を得て、コロンビア・アンデス大学留学プログラムの構築や、日本研究施設を持つメキシコ・コリマ大学との連

携、さらにドイツを中心とした EU 地域における協定校づくりも構想している。

# (3) 演習科目を中心に少人数授業を展開

本学部は国際文化学科(入学定員 100 名)に 14 名、国際協力学科(入学定員 50 名)に 9 名の専任教員を配置し、多彩な学修分野において講義科目を設定しているので、専門科目の講義においても比較的少人数クラスを維持することが可能である。さらに、1 年次から 4 年次にわたって全ての学年に演習を配当することで、入学時の導入教育から卒業研究までの全ての学修段階で 10 名程度の少人数教育を実現している。

# (4)教育方法の点検と改善

教育プログラム及び教育方法、授業内容の教育効果の判定などについて、学部レベルで不断の改善努力が実施されるように、学部内に FD 委員会を設置し、学長のもとに置かれている全学 FD 委員会と連携して、シラバス、授業内容、教育方法の点検、教員相互の教育評価、学生による授業評価、さらには学部外への教育の公開と学部外からの教育評価などを実施し、客観的な教育効果の判定と改善に努める。

## (5) 成績評価

本学部では、教育の質を確保するために、本学の履修規程に準拠して厳格な成績評価を行う。成績評価の方法を各科目のシラバスに明記するなど、成績評価の妥当性や説明責任を十分に考慮する。成績評価は、S (100~90点)、A (89~80点)、B (79~70点)、C (69~60点)、D (59点以下、不合格)、J (失格)、W (試験欠席)で表示し、点数等による成績評価になじまない科目についての単位認定は、P (Passed (合格))、学部が認めた他の教育機関で修得した単位の認定は、R (Recognized (認定))で評価する。卒業判定時において、卒業要件に満たないものが、当該年度に受験し不合格となった授業科目について、その試験に合格することにより卒業資格が得られる場合に限り、本人の願い出により、再試験を受けることができるものとする。再試験を受けることができる単位数は、12単位以内とし、再試験の追試及び再々試験は行わない。

# 2. 履修指導方法

## (1) 履修ガイダンス等の実施

各学年の前期の授業開始前に「履修ガイダンス」を行う。まず、学年ごとの全体説明会を行い、年次に対応した履修上の注意点を説明する。さらに、個別説明会を同時に行い、各学生の成績・単位取得状況及び将来の進路希望等に合わせて、適切な学修成果をあげられるようきめ細かい履修指導を行う。

# (2) 国際文化学科の履修モデル

国際文化学科の養成する人材像に対応して、「グローバル文化」「日本アジア文化」に 対応した履修モデルを提示し学修の方向性を示すとともに、各学生の進路希望に合わせて 履修科目について適切なアドバイスを行う。

# ①広くグローバル文化を学修し、国際的視野に立つ企業や機関等で活躍する学生のため に (グローバル文化モデル) (資料 2)

## a)想定される進路

一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力 を必要とする企業、行政機関など。

#### b) 履修モデルの考え方

グローバルな視野に立って多文化社会を理解し国際的な場で活躍するため、優れた外国語運用能力を備え、文化・歴史・社会・政治・経済などの広範な知識を基に複雑な国際関係を理解する。

#### c) 履修科目の概要

国際文化学部において、英語教育の根幹部分は必修科目として配当されている。1年次の学生は、『NGU 教養スタンダード科目』における必修の「基礎英語 1・2」「英会話 1・2」で基礎的な英語力を修得すると同時に、国際文化学科『基幹科目』における必修の「英語演習 1・2」を履修する。続いて 2 年次で「英語演習 3・4・5・6」(必修)を履修し、いっそう応用力を増した英語力を獲得する。同時に、本学科では第二外国語学習を選択必修とし、ドイツ語、フランス語、スペイン語又は中国語のいずれかについて、1 年次から 3 年次まで 10 科目(10 単位)を履修する。このほか、さらに上級の英語能力を養う科目を多数配置し、選択可能とする。

この履修モデルでは、専門科目の『グローバル文化展開科目』を中心に履修を進めていく。グローバル文化の牽引力でもある「アメリカ社会文化論」「アメリカ政治経済論」を学ぶとともに、「ヨーロッパ地域文化論 A・B・C」など西洋文化に関わる科目を履修する。また、世界を構成する現代の文化圏について、地域的文化・宗教・生業等の多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解できるように履修する。さらに、文化の成立・変容・地域化などを理論的に学ぶ科目の履修を推奨する。

# ②激動し、国際力を強めるアジア地域を中心とした国際社会で活躍する学生のために(日本アジア文化モデル)(資料3)

# a)想定される進路

一般企業、アジアを中心に展開する国際企業、観光・航空・流通などの企業、行政機関など。

# b) 履修モデルの考え方

広く我が国内外における多文化社会、多文化共生・協働を理解し、日本とアジアの関係を中心に学修を進め、アジアを中心とした国際社会への参画を志す人材のための教育プログラムを提示する。

# c) 履修科目の概要

英語及び第二外国語に関する履修科目については、上記の「グローバル文化モデル」と同様である。

この履修モデルでは、『日本アジア文化展開科目』を中心に履修を進める。現在の青年層が学ぶ機会が少ないと思われる「日本文化史」「日本社会論」などを通して、日本の歴史・文化・社会的特質・慣習・宗教などを多面的に学修することが推奨される。併せて、アジア文化の中核ともいえる中国文化圏に関して「現代中国事情」「中国社会経済論」などを履修するとともに、アジア諸国の歴史と現状を学ぶ。これにより、アジア世界を客観的に見る目を養うとともに、日本とアジア地域との深い関係について、歴史を踏まえた上で現実の政治経済を理解する。

# (1) 国際協力学科の履修モデル

国際協力学科の養成する人材像に対応して、「文化協力」「文化支援」に則した履修 モデルをそれぞれ提示することで、学修の方向性を示すとともに、各学生の進路希望に 合わせて履修科目について適切なアドバイスを行う。

# ①国際理解に基づく文化協力の担い手として活躍する学生のために(文化協力モデル) (資料 4)

#### a)想定される進路

観光・流通・航空業などを中心とした民間企業、とりわけアジア諸国との関係が深い 企業活動や、アジアを中心とした国際協力活動に従事する機関や団体など。

# b) 履修モデルの考え方

国際理解・多文化交流のあり方を自覚的に考察する能力を養い、多様化しつつ、さら に格差を拡大している現実のグローバル社会における文化協力と、文化的共生を核にした国際貢献を実践できる能力を養う。

## c) 履修科目の概要

国際協力学科においても、英語教育の根幹部分は必修科目として配当されており、英語及び第二外国語に関する履修科目については国際文化学科と同様である。

この履修モデルでは、国際社会における共生・協力に関して、国際関係・国際協力の原理と実体を正確に理解し、国際協力とりわけ文化協力の場面で実践的な対応が取れる人材の養成を目指す。『学科基幹科目』における必修科目の「国際関係論」「国際協力論」に加えて、「国際文化支援論」「開発社会学」「文化交流論」さらには「ジェンダ

一論」や「マイノリティ論」などを学ぶ。これにより、単に世界を地域的な区分で理解するのではなく、それぞれの国や地域あるいは文化圏において多相な人々の現実の生活があることを理解する。さらに、『国際文化協力展開科目』の「国際移民論」「アジア政治論」「国際機構論」「アジア地域関係 1・2」などを通して国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学ぶ。

# ②国際文化支援の実践者として活躍する学生のために(文化支援モデル)(資料 5) a)想定される進路

国内における国際協力事業のみならず、国際的活動をしている NGO・NPO、国際公務員など。

# b) 履修モデルの考え方

開発途上地域の実情やそこでの支援活動を理解し、現実的な途上国支援のあり方について学び、国内外で積極的な国際支援活動へ参画できる能力を養う。

# c) 履修科目の概要

英語及び第二外国語に関する履修科目については、上記の「文化協力モデル」と同様である。

国際支援を中心に据えたこのモデルでは、文化協力モデルと同様に、『学科基幹科目』における必修科目の「国際関係論」「国際協力論」に加えて、「国際文化支援論」「開発社会学」「文化交流論」さらには「ジェンダー論」や「マイノリティ論」などを学ぶ。これにより、単に世界を地域的な区分で理解するのではなく、それぞれの国や地域あるいは文化圏において多相な人々の現実の生活があることを理解する。さらに、『国際文化支援展開科目』において「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「多文化教育論」「国際人権論」など、特に開発途上国の支援を念頭に据えた科目を中心に履修する。併せて、「国際環境文化論」「企業文化論」「世界遺産と保全」など、開発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学ぶ。

# (4) 「フィールドワーク」「スタディー・ツアー」の指導

国際文化学科では「フィールドワーク」を、国際協力学科では「スタディー・ツアー」を重要な実践科目として位置付けている。これらは選択科目であり、多くは夏季又は春季休暇に集中形式で実施され、在学期間中に参加・体験することを推奨する。「スタディー・ツアー」の単位取得には「国際協力実践論1」(前期開講)及び「国際協力実践論2」(後期開講)の履修が前提となる。「フィールドワーク」及び「スタディー・ツアー」については、履修ガイダンスで参加の意義を強調し、一人でも多くの学生が体験の実をあげるように努める。

# (5) 適切な履修計画と十分な学修効果の確保

本学では、十分な学修時間と学修効果を確保し、また学期当初に自らが計画した履修が適切に実行されるように、各学期(セメスター)の履修制限単位を設けている。国際文化学部では学期ごとの履修上限を24単位とし、適切な履修登録を行うように指導する。また、GPA(Grade Point Average、成績加重平均値)を導入し、客観的な基準に基づいて適切な履修指導・修学支援を行うとともに、成績優秀者を選考して表彰を行い、より高い学修効果を達成できるよう促していく。

# (6) 演習科目の履修方法

1年次前期に開講される NGU 教養スタンダード科目の「基礎セミナー」は、クラス指定による自動登録とする。2年次以降の演習科目については学生に希望調査を行い、可能な限り希望を実現できるように配慮するが、一部については成績等によって所属を決定する。

# 3. 卒業要件

国際文化学部国際文化学科及び国際協力学科の卒業要件は下記のとおりとする。

# 国際文化学科

		キリスト教		4 単位以上(うち必修4単位)			
NGU 教養 スタンダード科目		自己理解と自己開発		6 単位以上(うち必修2単位)	]		
		社会的教養	人間理解、社会理解、自然 理解、歷史文化理解、環境 理解、身体理解、地域理解	12 単位以上選択	34 単位		
			言語とコミュニケーション	10 単位以上(うち必修 6 単位、 選択必修 4 単位)			
			情報理解	2 単位以上(うち必修2単位)			
	学部共通科目			16 単位以上 (うち必修 4 単位、選択必修 6 単位)			
専門科目	学科基幹科目			18 単位以上 (うち必修 10 単位)	60 単位		
	学科展開科目	<グローバル文化展開科目> <日本アジア文化展開科目> <国際協力関連科目> <留学単位振替科目>		選択 26 単位以上			
	演習科目				12 単位		
自目	18 単位以上						
合	124 単位以上						

#### 国際協力学科

		キリスト教		4 単位以上(うち必修 4 単位)		
NGU 教養 スタンダード科目		自己理解と自己開発		6 単位以上(うち必修2単位)		
		社会的教養	人間理解、社会理解、自然 理解、歷史文化理解、環境 理解、身体理解、地域理解	12 単位以上選択	34 単位	
			言語とコミュニケーション	10 単位以上(うち必修 6 単位、 選択必修 4 単位)		
			情報理解	2 単位以上(うち必修2単位)		
	学部共通科目			16 単位以上 (うち必修 4 単位、選択必修 6 単位)		
専門科目	学科基幹科目			18 単位以上 (うち必修 10 単位)	60 単位	
	学科展開科目	<国際文化協力展開科目> <国際文化支援展開科目> <国際文化関連科目> <留学単位振替科目>		選択 26 単位以上		
	演習科目	,			12 単位	
自日	18 単位以上					
合	124 単位以上					

# Ⅲ 施設設備の整備について

#### 1. 校地、運動場の整備計画

本学は名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスを有しており、国際文化学部の設置に伴う校地及び運動場の用地については、名古屋キャンパス(白鳥学舎及び日比野学舎〔白鳥学舎から北西 700m〕)を既存学部と共用する。

名古屋キャンパスは2007年4月に名古屋地区におけるキャンパス都心回帰の先鞭をつけて名古屋市熱田区に新たに開設された都心型キャンパスであり、金山総合駅の南西約1.5kmに立地している。一方で大学周辺は白鳥公園等緑豊かな環境に囲まれ、熱田神宮をはじめ多くの神社仏閣が位置する歴史的文化地区でもあり、名古屋国際会議場にも隣接した教育・研究にふさわしい環境となっている。

大学設置基準上の校地等敷地は、大学全体で 308,912.77 ㎡を確保しており、必要面積 53,600 ㎡を十分満たしており、内名古屋キャンパスは 22,444.84 ㎡ (白鳥学舎 21,536.84 ㎡、日比野学舎 908 ㎡) となっている。中心校地である白鳥学舎には校舎、体育館棟、チャペル、クラブハウス等の主要施設を整備している。運動用地としては、テニスコート 3 面が白鳥学舎にあり、体育館棟内のアリーナ(1,314.1 ㎡)、小体育館 2 室(133.76 ㎡、208.89

㎡)、トレーニング室 (169.76 ㎡) と共に体育実技や課外活動等に積極的に利用されている。 白鳥学舎中央にはキャンパス広場を設け、各所に樹木、芝生が植栽されている。2010 年春 に竣工した翼館北側にはテラスを設け、学生の憩いの場となっている。

白鳥学舎の校地のうち、15,553.21 m<sup>2</sup>は名古屋市からの借地であり、平成17年7月に「定期借地権設定契約書」を同市と結び、隣接する白鳥公園と調和するように整備されている。

#### 2. 校舎等施設の整備計画

国際文化学部の設置に伴う講義室等については、名古屋キャンパスの既設校舎を他学部 と共用するとともに、平成27年4月竣工予定の「希館」を活用し、教育研究の充実を図る。

希館は、平成27年4月開設予定の現代社会学部とともに専用スペースを設ける計画である。希館の主な施設の内訳は、小教室(30人)8室、中教室(80人)4室、大教室(300人)2室、学部長室(2室)、研究室(10室)のほか、会議室、事務室、ステューデントルーム(1室)、レストランなどである。

既設校舎については、白鳥学舎に大教室 (280人・300人) 7室、中教室 (180人・150人・80人・60人) 20室、小教室 (30人) 27室、パソコン教室 3室、研究室、会議室、ホール、事務室などを整備している。また、日比野学舎には中教室 (150人、60人) 5室、小教室 (30人) 12室、パソコン教室 5室、事務室などを設置している。

上記を踏まえ、完成年度の授業時間割に示すように、本学部の教育環境に支障はない。 (資料 6)

#### 3 図書等の資料及び図書館の整備計画

#### (1)図書館の概要

本学は名古屋キャンパス図書館と瀬戸キャンパス図書館を合わせ、図書 370,958 冊、学術雑誌 6,787 タイトル、電子ジャーナル 8,547 タイトルを所有している。蔵書構成は開学以来、人文・社会科学分野を中心として幅広く資料を収集してきたが、近年スポーツ健康学部、リハビリテーション学部の開設に伴い、自然科学分野の蔵書割合が増加している。資料の体系的整備として、基本的学術図書については、図書館員による選書体制により新刊書を中心に収集に努めているほか、講義内容に基づいた資料収集については、教員の協力を得て指定図書制度を設けている。

名古屋キャンパス図書館は、延床面積 1,773 ㎡ (座席数 417 席)で 2007 年 3 月に開館、さらに法学部開設に伴い 2013 年 4 月に同キャンパス内に法学部資料室、延床面積 203 ㎡ (座席数 60 席)を開室し、双方とも全面開架制となっている。3 階図書館は一般図書・参考図書・雑誌コーナーを設置した静かに学習するフロア、4 階にはパソコン利用・DVD 視聴、語学学習・グループ学習が可能なラーニングコモンズを設けている。 OPAC 用端末 4 台、パソコン 50 台、ノートパソコンコーナー36 席、3 人で DVD を視聴できるブースを 3 席設けている。

本学の蔵書目録データは全て電子化され、インターネットで学内外から検索することが可能である。学習支援システムである CCS(キャンパス・コミュニケーション・サービス) と図書館システムの連携により、CCS で図書の申込 (購入・他キャンパス資料取り寄せ・相互貸借)・予約が可能であり、学生に積極的に利用されている。 (資料7)

図書は 2003 年度から国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL) を利用して整備を進めている。また、他大学図書館との相互貸借や複写も NACSIS-ILL を利用して行っている。料金相殺サービスは 2004 年 4 月開始当初から参加し、各館の料金処理省力化に協力している。

#### (2) 図書資料の整備計画

# ①図書等の整備

大学の特色であるキリスト教、学士力の基礎となる教養スタンダード科目関連資料、「国際文化学部」の専門科目である語学、国際文化、国際協力、文学関連資料は、図書109,913 冊、「異文化間教育」「言語研究」「Language Learning」などの雑誌 660誌、視聴覚資料 1,578点を所蔵し、十分整備されている。今後は新刊書を中心に収集するとともに、英文リーダーズなどを含め電子ブックも導入していく。非売品については寄贈による資料収集を行い、体系的に資料整備を行う。

#### ②電子資料の整備

「EBSCOhost Academic Search Premier」「Science Direct」「SpringerLink」「Cambridge Journals Online」など人文・社会分野の電子ジャーナル、「Literature Online(英米文学電子ライブラリ)」の導入により電子ジャーナルは 400 誌利用可能である。また、言語・文学データベースである「MLA International Bibliography」も導入している。日本語文献では、「日経 BP 記事検索サービス」、「ジャパンナレッジ」、最新情報を入手できる「日経テレコン 21」「聞蔵(朝日新聞)」「中日新聞」のデータベースを整備している。また、本学蔵書・電子ジャーナル・電子書籍を一括検索可能な EBSCO Discovery Service を導入し、さらに情報検索を向上させる。

本学は学生全員にノートパソコンを配布し、自宅から大学契約電子資料をリモートアクセスすることが可能で、電子資料を積極的に利用できる環境が整備されている。

# Ⅲ 入学者選抜の概要

#### 1. アドミッション・ポリシー

国際文化学部の学生受け入れの基本方針は次の各項からなる。 まず、現代のグローバル社会を自覚し、文化の多様性や多様な生活様式、言語、宗教、 慣習などを相対的な視野で見通せるような将来を希求するもの、つまり真の国際人を目指し、自らの可能性を信じ、その目指すべき道の実現に向けて努力することを怠らない学生、さらにはそのために克己心をもって物事に立ち向かうような積極的かつ地道な努力を実践する気持ちを持つ学生などである。さらに、そのために実践的ツールとしての語学力を積極的に身に付け、その運用能力を高める不断に努力する意志の強固なものが望ましい。

国際的ビジネスパーソン、国際協力・国際支援に関わるような活動に積極的に参画しようと考える人、国際的視野をもって、観光・流通・交通などの業を目指す人、海外で日本を紹介し、また日本語・日本文化の指導者として活躍することを希望している人なども、本学部が受け入れる人材として相応しいと考えられる。

自ら考え、自ら行動すること、加えて、その前提となる現実社会から実践的に課題を掘り起こし、その解決のための方策を模索するような、じっくりと考え行動する人材こそ、本学部が受け入れ、共に学びつつ真の国際人として養成していきたい人材なのである。

# 2. 学生募集の方法

新学部・学科の学生募集にあたっては、一面的な学力に偏らない多様性をもって評価するため、多様な入試制度及び評価の多元化を行い、学ぶ意欲のある受験生を選抜、受け入れる予定である。

# 【国際文化学部国際文化学科】

#### (1) 一般入試:募集人員39名、入学定員の26.0%

2 教科または3 教科での選抜を基本とし、学部教育に必要な学力を有する学生を選抜する入試である。具体的には1月下旬より3月中旬に、前期・中期・後期日程として既存学部と同日程で実施予定である。

# ① 一般入試(前期):募集人員25名、入学定員の16.7%

#### 2 教科型

英語(必須)

国語、日本史・世界史、政治経済、数学より1教科 各150点、計300点

# 3 教科型

英語、国語(必須)

日本史・世界史、政治経済、数学より2教科 各100点、計300点

#### ② 一般入試(中期):募集人員8名、入学定員の5.3%

国語、英語、日本史・世界史、数学より 2 教科(国語か英語のどちらかを必ず含む

#### こと) 各100点、計200点

# ③ 一般入試(後期):募集人員6名、入学定員の4.0%

国語、英語、日本史・世界史、数学より 2 教科(国語か英語のどちらかを必ず含むこと) 各 100 点、計 200 点

# (2) 大学入試センター試験利用入試:募集人員14名、入学定員の9.3%

大学入試センター試験の得点のみ 2 教科または 3 教科で選考する。日程については、 前期・中期・後期と 3 期設定する。

# (3) 一般推薦入試:募集人員21名、入学定員の14.0%

学校長の推薦を基に、高校時代の勉学成績に諸活動(部活動、生徒会活動、取得資格、ボランティア活動など)を加え、試験当日、小論文と面接または、基礎学力テスト(英語、国語)と面接により総合的に評価・選考する。実施時期は、既存学部と同日程の前期(11月)と後期(12月中旬)に行う予定であり、他大学との併願を可能とする。

# (4) 指定校推薦入試:募集人員 15名、入学定員の 10.0%

本学への入学を第 1 希望とし、高等学校評定平均値が基準以上であり、本学が指定する高等学校長の推薦により、試験当日、小論文と面接により評価・選考する。実施時期は、既存学部と同日程の 11 月に行う予定である。

# (5) AO入試:募集人員 10名、入学定員の 6.7%

学部教育に必要な理解力・考察力・協調性・表現力等を多面的に評価する AO 入試を 導入予定である。内容は、書類審査・事前課題に加え、授業または演習または実技に加 え、テストまたはディスカッションまたはレポートの結果により総合評価する予定であ る。

# (6) 文化系活動推薦入試:募集人員1名、入学定員の1.0%

高校時代に文化活動や芸術活動、ボランティアなどの社会活動において顕著な実績を 収めた学生を選抜する入試である。事前に活動内容について審査を実施し、適切と認め られた者のみ小論文と面接での試験を実施する。

#### 【国際文化学部国際協力学科】

# (1) 一般入試:募集人員 16名、入学定員の 32.0%

2 教科または3 教科での選抜を基本とし、学部教育に必要な学力を有する学生を選抜する入試である。具体的には1月下旬より3月中旬に、前期・中期・後期日程として既存

学部と同日程で実施予定である。

# ① 一般入試(前期):募集人員10名、入学定員の20.0%

# 2 教科型

英語(必須)

国語、日本史・世界史、政治経済、数学より1教科 各150点、計300点

# 3 教科型

英語、国語(必須) 日本史・世界史、政治経済、数学より2教科 各100点、計300点

# ② 一般入試(中期):募集人員3名、入学定員の6.0%

国語、英語、日本史・世界史、数学より 2 教科(国語か英語のどちらかを必ず含むこと) 各 100 点、計 200 点

# ③ 一般入試(後期):募集人員3名、入学定員の6.0%

国語、英語、日本史・世界史、数学より 2 教科(国語か英語のどちらかを必ず含むこと) 各 100 点、計 200 点

#### (2) 大学入試センター試験利用入試:募集人員8名、入学定員の16.0%

大学入試センター試験の得点のみ 2 教科または 3 教科で選考する。日程については、 前期・中期・後期と 3 期設定する。

#### (3) 一般推薦入試:募集人員6名、入学定員の12.0%

学校長の推薦を基に、高校時代の勉学成績に諸活動(部活動、生徒会活動、取得資格、ボランティア活動など)を加え、試験当日、小論文と面接または、基礎学力テスト(英語、国語)と面接により総合的に評価・選考する。実施時期は、既存学部と同日程の前期(11月)と後期(12月中旬)に行う予定であり、他大学との併願を可能とする。

#### (4) 指定校推薦入試:募集人員9名、入学定員の18.0%

本学への入学を第 1 希望とし、高等学校評定平均値が基準以上であり、本学が指定する高等学校長の推薦により、試験当日、小論文と面接により評価・選考する。実施時期は、 既存学部と同日程の 11 月に行う予定である。

# (5) AO入試:募集人員 11 名、入学定員の 22.0%

学部教育に必要な理解力・考察力・協調性・表現力等を多面的に評価する AO 入試を導入予定である。内容は、書類審査・事前課題に加え、授業または演習または実技に加え、テストまたはディスカッションまたはレポートの結果により総合評価する予定である。

# 区 実習について

# 1. 国際文化学科で実施する「フィールドワーク」(国内地域研究研修)

「フィールドワーク」(実習科目、集中開講1単位)は、日本の文化や社会環境、それを支える日本独特の自然の構造について学ぶ実践的科目である。この教育目的を達成するために2コースの教育プログラムを設定し、受講を希望する学生の多くの要望に対応することとする。

#### (1) フィールドワークの概要

#### ①プログラム1

国際文化学部は名古屋キャンパスに設置されるが、瀬戸キャンパスの広大な敷地と合宿所などの充実した施設を活用して 1 週間 (宿泊) にわたるフィールドワーク (地域研究活動) を実施する。瀬戸市は 1300 年の歴史を持つ日本有数の陶磁器産地であり、日本的儀礼や伝統文化が色濃く残存するとともに、愛知万博が開催された自然環境に恵まれた里山地域をも併せ持つ。フィールドワークは歴史の専門教員と環境の専門教員の指導によって進められ、瀬戸市内を中心とした尾張地区とりわけ瀬戸キャンパス近傍の博物館、工房、集落等の訪問調査を実施する。

# ②プログラム2

瀬戸キャンパスでのフィールドワークとは別に、専任教員の引率・指導による少人数 (10 名未満程度) の地域・文化理解学習として京都地区(伝統的文化理解、国立国際日本文化研究センター施設学習を含む)、飛騨地域(山村文化理解)、三河山間部(山村文化理解)、大阪地区(国際文化理解、国立民族学博物館施設学習を含む)などのプログラムを「フィールドワーク」の科目として年度授業計画の範囲で開講する。

#### (2) 実習先との連携

これまで本学は、瀬戸キャンパス所在地の自治体である瀬戸市との間で、行政支援、地場産業研究、愛知万博研究、同ボランティア支援、街づくりにおける連携、小中学校の教育支援及び学生のインターシップなどで多くの連携関係を構築してきた。現在、「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業)の推進にあたって、両者の間に包括的な協力関係も整備されている。このような関係を基礎に、瀬戸市内全域で学生の体験学習を実践するこ

とには支障がなく、市役所のみならず、商工会議所、複数の博物館施設、地域自治組織等 の協力を全面的に得ることが可能である。

また、学外への引率宿泊を必要とする「フィールドワーク」(プログラム 2)は少人数での活動を原則としており、当該地域の状況に精通した教員が、現地自治体、NPO 等の協力を得て実施する。さらに国立民族学博物館や国立国際日本文化研究センター、その他の協力施設とは専任教員の研究活動を通して緊密な連携が成立しており、学生の学修活動に対する協力関係が可能である。

# (3) 実施体制、安全性の確保及び責任体制

「フィールドワーク」担当教員 4名による運営会議を設置するとともに、責任教員を配置し、その進行管理を行う。運営会議は、プログラムの調整・策定、参加する学生の募集及び選考、事前学習の実施、フィールド期間中の学生の支援・指導、事後学習の実施及び成績評価などを行うとともに、訪問先との連絡・調整を行う。実施にあたっては教員の同行を原則として、「聞き取り調査」等の学生主体の活動にあっても協力先との連絡を密にし、事前の計画段階から行動計画を策定・提出するなど、学生の安全確保と協力団体の全面的理解が十分に取れるように配慮する。

フィールドワーク実施にあたり、大学は事前に、訪問先との連絡・調整により安全性の確保に努める。また、「学生教育研究災害傷害保険」に加入することで、学生の実習中に被る事故に対する補償に備える。

#### (4) 成績評価方法

本学部の「フィールドワーク」では学習内容を厳格に評価するために、修得単位に十分な学習時間を確保する。現地実習は5日間で計40時間(1日8時間×5日)であるが、その前後に2日(8時間)ずつの事前学習・事後学習の時間を設けるので、延べ教育時間は56時間となる。「フィールドワーク」で訪問調査を実施し、収集した情報は毎晩行われる取りまとめと反省のミーティング等で報告され、議論される。その成果は「実習ノート及び最終レポート」(報告書)に取りまとめられる。これら一連の学習成果と実習目標への達成度は、「実習への参加態度50%」「報告及び報告書50%」として評価される。

# (5) 選考方法

「フィールドワーク」への受講登録については学生の希望に基づいて決定するが、1年次からの参加を可能とする。瀬戸キャンパスを中心に展開されるプログラムでは施設上十分な学生を収容することが可能であるが、定員を超過する場合には参加理由や具体的な成果への展望等に関するレポートを提出させて選考する。

# 2. 国際協力学科で実施する「スタディー・ツアー」(海外地域研究研修)

#### (1) 外国語学部国際文化協力学科での実績

スタディー・ツアーは、国際協力学科設置の母体となる外国語学部国際文化協力学科において既に実施され、多くの成果を有している。過去のスタディー・ツアーは、相手国の政治経済的背景や慣習・正業・宗教などの一般的事項に関する事前学習を前提として、現地における生活状況や教育環境、地域の文化活動などについて、関係機関や協定・協力大学などの連携の下で、実地見学や調査活動を実施するとともに、支援ボランティア体験も行ってきた。それらの体験を基に、当該国の日本国大使館や国際協力機構(JICA)現地事務所や青年海外協力隊(JOCV)現地事務局などを訪問し、長期にわたる協力・支援活動の実体の一部に触れるなど、国内では経験できない異文化体験と共生体験並びに日本の国際協力の重要性などについて実践的な学修をしてきた。このプログラムの経験を国際協力学科においても踏襲し、さらにグローバル人材として相応しい体験学習の場として充実させていく予定である。

外国語学部国際文化協力学科スタディー・ツアーの実績

年度	日程	訪問国	交流大学•機関	研修報告書
2008	8月19~29日	マレーシア	マレーシア国民大学 マレーシア大学サバ校	2009.1. p107.
2009	8月6~月15日	タイ・ラオス	タマサート大学 ラオス国立大学	2010.1. p82.
2010	8月15~25日	ラオス	ラオス日本人材センター 他	2011.1. p51.
2011	8月27日~9月8日	東チモール、 インドネシア	JICA、AFMET 他	2012.2. p96.
2012	8月25日~9月8日	フィリピン	JICA、アテネオ・デ・マニラ 大学	2013.3. p68.
2013	8月13~29日	タイ	コンケン大学、JICA 他	2014.2. p68.

# (2) スタディー・ツアー概要

スタディー・ツアーは、国際協力学科学生の参加希望者を組織し、海外の特定地域における短期滞在型現地体験調査学習活動(原則夏季休暇中、2単位)と並びに事前学習(前期)及び事後学習(後期)からなる。授業計画に則していえば、「スタディー・ツアー」自体の授業計画と評価は教育課程における「海外事情 1・2・3・4」のいずれかをもって充てられる。また、現地学習の前提となる事前・事後学習は、講義科目「国際協力実践論1・2」(各2単位)で確実に実施され、その全てに参加し評価を得たものに単位が与え

られる。

スタディー・ツアーの対象地域は各学年の授業計画の中であらかじめ決定され、前期履修登録前に開示される。プログラムの中心は特定された国・地域における日本の国際支援活動の実地学習と広範な現地事情の見学学習から構成される。現地実習期間は10日間・80時間以上を予定しており、実習科目(2単位)として十分な学習時間が担保できるようにプログラム化される。学習内容は現地事情の見学が主となるが、現地の日本国公館(大使館・領事館など)の訪問、JICA、JOCV等の日本国が実施している支援事業の現地訪問と指導、当該地域で活動しているNGO、NPOの現状調査と見学、相手国に存在する本学との国際交流提携大学への訪問と現地における講義などから構成される。

スタディー・ツアー対象地域については、広くアジア・ヨーロッパを想定している。本学は現在82の海外協定校(資料8)を有しており、そのうちアジア圏では中国10、台湾2、韓国3、タイ1、フィリピン3、マレーシア1、ヨーロッパ圏ではイギリス1、ポーラ33ンド1である。また現在、これまで交流実績のない他の地域における協定校の拡大も模索しており、在日本コロンビア共和国大使館の協力を得てコロンビア・アンデス大学留学プログラムの構築や日本研究施設を持つメキシコ・コリマ大学との連携、ドイツを中心としたEU地域における協定校づくりなども構想中である。

内容的にも、国際協力・支援活動の基盤としての現地理解をいっそう推し進めることができるようにプログラムの中に提携大学学生との交流・共同学習の機会を大幅に導入し、 英語及び現地の言語を活用した国際コミュニケーション体験の場としても教育効果が望めるような計画を積極的に組み入れる予定である。

# (3) 実習先との連携

先述したように、これまで本学は多くの国際交流協定大学等を有してきたので、既存の外国語学部国際文化協力学科及び中国コミュニケーション学科においても多彩な海外教育プログラムを展開してきた。この経験から海外における実習先とは恒常的な連携関係を通した強い信頼関係が構築されているので、今般の「スタディー・ツアー」でもその協定がプログラムの基盤となる。ただし、現地学習にあたっては当該地域の在外公館やJICAなどの支援組織との協力関係も不可欠であり、これまでの経験を十分生かした連携を持続させるとともに、その責任者として現地事情に精通した専任教員をコーディネーターとして配置する。

# (4) 実施体制、安全性の確保及び責任体制

スタディー・ツアー担当教員 6 名による運営会議を設置するとともに、責任教員を配置 し、その進行管理を行う。運営会議は、プログラムの調整・策定、参加する学生の募集及 び選考、事前学習の実施、フィールド期間中の学生の支援・指導、事後学習の実施及び成 績評価などを行うとともに、訪問先との連絡・調整を行う。 海外活動は常に危険と隣り合わせの面を随伴する。当該現地事情に精通した専任教員が指導にあたるが、現地の流動する政治・経済・治安状況などを的確に把握し、参加学生の安全確保を十分なものとするために、外務省や在外公館の発する情報を的確に把握し、問題が生じれば速やかに対応する体制をとる。そのため、現地活動中の教員・引率職員との連絡が常時取れるように、本学部内に実施本部を設けて学部長が常に対応可能な状態とする。その上で、参加学生及び教職員には海外旅行保険をかけ、かつその補償範囲内の活動で完結するように指導をする。実習にあたっては教員の同行を原則として、個人行動の伴う「聞き取り調査」等の学生主体の活動にあっても協力先との連絡を密にし、事前の計画段階から行動計画を策定・提出するなど、学生の安全確保と協力団体の全面的理解が十分に取れるように学部として配慮する。

# (5) 単位付与の仕組みと成績評価

スタディー・ツアーは国際協力学科学生の参加希望者を組織し、海外の特定地域(年度 ごとに選定)における短期滞在型現地体験調査学習活動(原則夏季休暇中、2 単位)とそ の事前学習(前期)及び事後学習(後期)からなる。授業計画に則していえば、「スタディー・ツアー」(短期滞在型現地体験調査学習活動)自体の授業計画と評価は教育課程に おける「海外事情 1・2・3・4」のいずれかをもって充てられる。また現地学習の前提と なる事前・事後学習は講義科目「国際協力実践論 1・2」(講義科目、各 2 単位)で確実 に実施され、基本的にはその全てに参加し評価を得たものに単位が与えられる。

成績の評価については音楽の講義科目及び実習科目の評価方法に従い、講義部分には成績に応じて  $S \cdot A \cdot B \cdot C$  (合格) 及び D (不合格) の評価が与えられる。さらに現地学習の部分(スタディー・ツアーとして別評価)については実習中の積極性、学習態度、実習成果の状況及び実習報告の愛用などで合否を判定する。なお、前述のように事前事後の学習を合格レベルで学習しなかった場合にはスタディー・ツアー部分の単位を修得することができない。

# (6) 選考方法

「スタディー・ツアー」への受講登録については学生の希望に基づいて決定するが、保護者の同意を原則としたうえで、1年次からの参加を可能とする。募集定員は20名程度を基本とし、定員を超過する場合には参加理由や具体的な成果への展望等に関するレポートを提出させて選考する。

# X 2つ以上の校地において教育を行う場合

国際文化学部は名古屋キャンパスで教育を行い、主たる教育・研究の場は白鳥学舎とな

っている。もう一方の日比野学舎については、専任教員 23名のうち 2名が専門科目の「英語演習  $1\sim6$ 」を担当する。両学舎間は徒歩 8分の距離であり、一体として管理・運営されている。

# 1. 教育体制について

# (1) 専任教員の配置

国際文化学部の専任教員 23 名は白鳥学舎に研究室をもち、教育、研究及びオフィスアワー等の活動に当たる。

#### (2) 教員の移動への配慮

本学部の主たる授業、学部の会議については白鳥学舎で行い、所定の科目のみ日比野学舎で授業を行う。授業時間割の設定については、同日中の学舎間移動が極力生じないように配慮されている。

日比野学舎 2 階において、教務に関する事務室を設置し職員が常駐しているほか、講師控室を整備して円滑な授業運営に配慮している。

# (3) 学生に対する配慮

本学部の学生は、教養科目の第二外国語科目に加え、1・2 年次必修科目の「英語演習 1~6」のみを日比野学舎で学修する。同日中の学舎間移動が極力生じないように授業時間割を配慮し、移動が生じる場合も休憩時間も適切に設定しているため、既存学部生と同様に円滑な学修が可能となる。また、日比野学舎 1 階及び 2 階にはカフェテリアが整備されており、学生が憩える環境となっている。

#### 2. 時間割について

前述のとおり、同日中の学舎間移動が極力生じないように授業時間割を配慮している。2 学舎間を同日中に移動する場合も、授業間の休憩時間を 15 分間、昼休みを 55 分間に設定 しており、授業には支障が生じない。また、教員についても同様に、教育・研究上に支障 が無いように配慮している。

#### 3. 本学部の専任教員がいない校地について

両学舎は徒歩 8 分の近距離に位置し、名古屋キャンパスとして一体として管理・運営されており、現代社会学部のほか既設学部の専任教員の研究室はすべて白鳥学舎に配置されている。日比野学舎は白鳥学舎の補完的校地であるため、専任教員の研究室は整備していない。

全学的には、語学を中心とした教養科目の一部、演習科目など専門科目の一部を日比野学舎で開講しており、講師控室にいずれかの教員が待機する体制をとっている。

## X I 管理運営

本学では、教学に関する管理運営体制として、大学全般にわたる学事を審議する「大学協議会」(学則第45条)、学部の教育研究に関する重要事項を審議する「教授会」(学則第46条)、各学部間の連絡調整等を行う「学部長会議」、及び各種委員会を設置している。新設される国際文化学部に関しても、現行の枠組みに基づいて管理運営を行う。

#### 1. 大学協議会

大学協議会は、大学全般にわたる学事を審議するための機関として設置するものであり、 学長(議長)、各研究科長、各学部長、各学部教授会より選出されたそれぞれ 3 名の教員 で構成する。 開催頻度は原則として月1回であり、次の事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学部、学科その他重要な施設の設置廃止に関する事項
- (3) 大学院、学部その他諸機関の連絡調整に関する事項
- (4) 教学予算に関する事項
- (5) 名誉教授に関する事項
- (6) その他大学の運営に関する重要事項

#### 2. 教授会

教授会は、学部の教育研究に関する重要事項についての審議機関として設置するものであり、教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。開催は原則として月 1 回であり、次の事項を審議する。

- (1) 教員の人事に関する事項
- (2) 学部に関わる規程の制定改廃に関する事項
- (3) 学部、学科、その他重要な施設の設置廃止に関する事項
- (4) 学部の教育及び研究に関する事項
- (5) 学生の入学・退学・転学部・転学科・休学・復学・再入学・編入学・除籍・卒業及び賞 罰に関する事項
- (6) その他学部に関する事項

#### 3. 学部長会議

学部長会議は、各学部間の連絡調整並びに大学の運営に関する重要な事項について、学長の諮問に応じるために設置され、学長(議長)、各学部長で構成する。また、教学部門の部長(宗教部、教務部、学生部、キャリアセンター、入学センター)が陪席する。開催頻度は原則として2週間に1回である。

#### 4. 各種委員会

各教学部門の事項を調査審議させるため、宗教部、教務部、学生部、キャリアセンター、 入学センター、国際センター、学術情報センター、総合研究所の下に委員会を置き、教員 部長、教授会より選出される委員で組織する。

## XII 自己点検·評価

#### 1. 自己点検・評価の実施方法及び実施体制

本学は、『名古屋学院大学の現状と課題』と題する自己点検評価報告書を毎年刊行・公表している。実施にあたっては、全学点検評価委員会のもとに、大学院点検評価委員会、学部点検評価委員会、部門点検評価委員会を組織している。全学点検評価委員会は、大学協議会から6名、大学院各研究科から2名、各学部から2名、宗教部長、学術情報センター長、総合研究所長及び事務局長で構成され、委員長は委員の互選により選出する。大学院点検評価委員会と学部点検評価委員会は大学院または学部の構成員の一部で組織し、部門点検評価委員会は各部門の委員並びに事務局役職者で組織する。

- (1)全学点検評価委員会
- (2)大学院点検評価委員会

経済経営研究科/外国語学研究科/外国語学研究科通信教育課程

(3)学部点検評価委員会

経済学部/商学部/法学部/外国語学部/人間健康学部/スポーツ健康学部/リハビリテーション学部/留学生別科

(4)部門点検評価委員会

宗教部/教務部/学生部/入学センター/キャリアセンター/学術情報センター/総合研究所/国際センター

#### 2. 点検・評価項目及び結果の活用

自己点検評価報告書『名古屋学院大学の現状と課題』における評価項目は、①理念・目的、②教育研究組織、③教育・教員組織、④教育内容・方法・成果、⑤学生の受入れ、⑥学生支援、⑦教育研究等環境、⑧社会連携・社会貢献、⑨管理運営・財務、⑩内部質保証、である。

自己点検・評価の結果に基づく重要問題は、全学点検評価委員会を通して総括書として 学長に提出された後、事業計画の策定に反映される。

#### 3. 大学基準協会加盟評価と相互評価

本学は、平成9年度に財団法人大学基準協会への加盟登録が承認された。平成16年度に

は同協会に認証評価申請を行い、平成 17 年 3 月 22 日付けで「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認証の期間は 2012 (平成 24) 年 3 月 31 日までとする。」との認証を受けた。

さらに、2011 年度に第 2 期(2012 年 4 月~2019 年 3 月)の認証評価申請を行い、平成 24 年 3 月 9 日付けで「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。 認定の期間は 2019(平成 31)年 3 月 31 日までとする。」との認証を受けている。

#### 4. 国際文化学部での取り組み

本学では既に全学的な自己点検・評価体制が構築されており、国際文化学部もこれに基づいて自己点検・評価活動を推進する。

## XII 情報の公表

本学は、教育研究活動に関する主要な情報について、公式ウェブサイト「情報公開」 (http://www.ngu.jp/outline/johokokai.html) に集約し、公表している。概要は以下のとおりである。

- (1) 大学の教育研究上の目的について、学部の学科、研究科の専攻ごとに、理念と目的を公表している。
- (2) 教育研究上の基本組織について、大学の学部及び学科、大学院の研究科及び専攻の名称を公表している。
- (3) 教員組織について、学部ごとの職位別人数、年齢構成、男女数、教員 1 人あたり学生 数を公表している。各教員の業績については、学歴・学位、研究分野・内容、研究業 績、学外活動の項目を設けて公表している。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学生数、卒業生・修了生の数、進学者数及び就職者数を公表している。
- (5) 大学及び大学院の授業科目、シラバス(授業の方法・内容)に加えて、学生生活に関する主要な年間行事も公表している。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定の基準について、学部は、学則(試験、卒業)、履修要項(試験、卒業)、履修規程(試験、成績)、学位規程を公表している。大学院については、大学院成績評価基準を公表している。
- (7) キャンパスの校地面積、校舎及び運動施設の概要、課外活動に用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段の状況を公表している。
- (8) 学納金(入学登録料、授業料、施設設備費、自治会・父母会費)、学生寮費、教材購入費を公表している。
- (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関して、教育学習支

援、学生生活支援、障がい者支援、奨学金・財政支援(大学)、修学支援制度(大学 院)、保健・学生相談支援、就職支援、資格取得支援、留学支援の項目を設けて公表 している。

(10) 学部の学科ごとに、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力、履修モデルを公表している。

上記のほか、公式ウエブサイトにおいて以下の情報を公表している。

- ・学則(http://www.ngu.jp/outline/gakusoku.html)
- ・自己点検・評価報告書(http://www.ngu.jp/outline/jikotenken.html)
- ・認証評価結果(http://www.ngu.jp/outline/ninshouhyouka.html)

## XIV 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組み

#### 1. 組織体制

本学は、全学的な視点から教育の改善、教員の資質の向上を図るため、「FD 委員会」を設置している。FD 委員会の構成は、学長(委員長)、教務部長(副委員長)、各学部長、全学点検評価委員長、学術情報センター長、各学部教務主任、共通教育運営委員長、事務局長、事務局次長及び教務課長である。さらに、下部組織として、学部長を委員長とする学部FD が置かれている。FD 委員会では、FD 活動の計画策定を行うほか、各学部で実施されている活動報告の共有も行うなど、組織的に授業内容方法の改善を図っている。

#### 2. 全学的な取組み

現在、大学全体として行っている取組みを以下に説明する。学生による授業アンケートは毎年学期毎に実施され、そのデータに基づいて、各学部・学科、科目グループで授業改善に取り組んでいる。授業アンケートの集計結果については、学長、教務部長、各学部長が検討し、必要に応じ対策を講じることとなっており、授業参観や個別面談などが実施される。学内のFD研修会として、ICT講習会、ワークショップ、事例発表、新任者懇談会など様々な取組みを年に複数回開催しており、授業の質向上に努めている。また、学外研修会や他大学の参考事例などについても適宜学内に配信している。これまでに実施のFD研修会については別表にまとめる。(資料9)

さらに、年に1回、建学の精神であるキリスト教主義教育をテーマに教職員研修会を開催 している。

#### 3. 国際文化学部での取り組み

国際文化学部においても、既存学部における教員の教育・研究の水準を維持し、さらに

向上できる環境づくりと条件整備に努める。全学 FD 委員会と連携する独自の FD 委員会を 設け、教員の資質向上に対する年次的な計画を立案し、学内において全員参加型の FD 研修 会を実施し、各教員からの成果報告をもとに見直しを進める。

## XV 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学の既設学部において、全学的なキャリア形成支援プログラムを体系化しており、国際文化学部もその枠組みを活用する。

#### 1. 教育課程内の取組みについて

#### (1) キャリアデザイン

NGU 教養スタンダード科目の中に、1年次から3年次まで「キャリアデザイン」を設置し、1年次前期の「キャリアデザイン1a」については、必修科目として全学の学生に履修をさせる。

#### ①キャリアデザイン la・1b (1年次)

前期の「キャリアデザイン 1a」では、キャリアの基本的な知識を身に付け、自分自身を分析することで学生時代のキャリアデザイン、卒業後のキャリアデザインを考える。 後期「キャリアデザイン 1b」では、「働くこと」に主眼を置いて、様々な角度から「働くこと」を考え、キャリアデザインと関連付けさせる。

- ·自己分析、他己分析、相互理解、他者理解、自己表現
- ・学生時代のキャリアデザイン
- ・卒業後のキャリアデザイン
- ・「働く意味」、「働き方」を考える
- ・「企業の仕組み」、「会社員」、「憧れの働き方」を考える

#### ②キャリアデザイン 2a・2b (2 年次)

「キャリアデザイン 1a・1b」の応用編と位置付け、前期では学生のアイデンティティの確立を目指す。また、後期では、「人間関係形成能力」「情報活用能力」の向上を目指す。

- ・大学生活の振り返り
- ・先輩たちに学ぶ
- アイデンティティを考える
- ・キャリアと就職活動の基礎
- ・会社を考える
- 課題解決のためのグループワーク

#### ③キャリアデザイン 3a・3b (3 年次)

「キャリアデザイン 1」「キャリアデザイン 2」を踏まえて、就職活動を実践するためのノウハウを吸収する。

- ・筆記試験の言語・非言語問題の対策法を学ぶ
- ・業界・業種の分析・研究をする
- ・自己分析(自分の売りをみつける)・履歴書・エントリーシートの作成
- ・面接対策(個人・集団)、グループディスカッション

#### (2) インターンシップ

NGU 教養スタンダード科目の中に「インターンシップ 1」「インターンシップ 2」を設置し、企業や官公庁などで例年 150 名の学生が就業体験している。ビジネス、ベンチャー、行政、NPO などの各分野があり、事前・事後学習を徹底させ、業界と仕事への理解を深めている。

#### 2. 教育課程外の取組みについて

#### (1) 資格取得プログラム

資格取得を支援する部署として「資格センター」を設置し、実践的な資格取得対策講座 と、教員・公務員試験対策講座を開講している。講座はすべての学部生を対象としている。

#### (資料 10)

#### (2) キャリアセンターによる就職支援

1年次からの「キャリア形成支援プログラム」と合わせて、本格的な就職活動を控えた 3年次後期からは、より実践的なキャリア支援を行っている。

#### ①就職活動全体ガイダンス(キャリアデザイン 3a・3b)

3 年次生全員を対象に、就職活動の進め方や求人票・就職情報サイトの活用方法など を説明している。

#### ②就活スタート個人面談 (3年生)

3年次生全員を対象に、卒業後の進路について一人ひとり個別に質問・相談に応じている。全体ガイダンスでは質問できなかったことや、自分のやりたい職業に就くための方法、とにかく何をやったらいいのか分からないといった漠然とした悩みなど、様々な相談に応じている。

#### ③就活経過個人面談(4年生)

4年次生全員を対象に、就職活動の経過状況の確認のために面談を行い、個別に質問・ 相談に応じている。就職活動での悩みについて、学生と一緒に解決の糸口を探っている。

#### ④模擬筆記テスト(キャリアデザイン 3a)

一般常識・論作文などの模擬テストを学内で実施し、その評価を個別の就職支援に生 かしている。

#### ⑤各種就職活動スキルレベルアップ講座

筆記試験対策講座、新聞の読み方講座、スーツ着こなし講座、履歴書・エントリーシート対策講座、業界・企業研究対策講座、面接対策講座、女子学生対象メイクアップ講座等の就活対策レベルアップ講座を実施している。

#### ⑥キャリアセンター内イベント講座(8名予約制)

8 名予約制のキャリアセンター内イベントを、就職活動開始時期や、その前の「キャリアデザイン 3b」で履歴書の勉強をしたときなどの時期に応じて適宜内容を替えて開催している。履歴書対策「ネタだし」講座( $11\sim12$  月)、集団面接対策講座・グループディスカッション対策講座・グループワーク対策講座・模擬筆記試験( $2\sim5$  月)を実施している。

#### ⑦就活サポーター支援(3年生対象)

10 月~翌年 3 月まで、4 年生で内定を獲得している学生が 1 日 1 名、キャリアセンターに常駐し、3 年生の支援を行っている。就活サポーターは、毎年各学部から 3 名程度、合計 10 名程度で運用している。

#### ⑧内定者報告会(3年生対象)

内定を得た4年次生の学生による就職活動報告会を開催し、実体験に基づく話から企業の採用状況までを後輩に伝えている。

#### ⑨業界セミナー

本学就職先の上位 10 業界の1 業界3 社を呼んで、11 日間実施している。その業界を 代表する企業が参加し、学生達は業界内での企業の位置づけや、業界自身のことを学習 できる機会となっている。また、他業界との比較もできるため、多数の学生達が参加し ている。

#### ⑩本学主催会社説明会(年 10 回開催)

例年、700 社以上の企業採用担当者と学生が直接話し合える説明会を、8 ケ月にわたって開催している。

#### ⑪専門カウンセラーによる支援

キャリアセンターでは、専門カウンセラーによる模擬面接や履歴書・エントリーシートの添削を予約制で実施している。

#### 3. 適切な体制の整備について

キャリアセンター運営委員会では、教育課程内の取組である「キャリアデザイン」の運用、インターンシップの運営に加え、教育課程外の就職支援の企画運営を行っている。キャリアデザインの運用については、共通教育運営委員会の配下のキャリアデザイン分科会と連携し、学生に効果的な授業実施を行っている。

委員会はキャリアセンター長(学長指名)、各学部より2名、キャリアデザイン担当教員2名のほか、キャリアセンター事務局で構成している。

キャリアセンター長は、教学部門の部長(宗教部、教務部、学生部、キャリアセンター、

入学センター)として、学部長会議の構成員である。したがって、キャリアセンター運営委員会と学部長会議の連携が保たれるため、全学的な視点で、学生のキャリア形成に関わる課題を討議できる体制を整えている。

## ○学校法人名古屋学院大学教員定年規程

(昭和50年2月3日 制定)

- 第1条 本大学に在職する専任教員の定年は、本規程に定めるところによる。
- 第2条 専任教員の定年は、満70才とする。
- 第3条 定年に達した教員は、定年に達した日の属する学年の末日限り退職する。
- **第4条** 大学長たる教授が定年に達したときは、その職務に従事する間は、在職期間 を延長することができる。
- 第5条 本規程の改訂は、理事会の議を経なければならない。

附則

- 第 1 条 本規程は、昭和50年2月28日から施行する。
- 第2条 昭和50年3月31日現在で定年に達している教員についての経過措置は別途 考慮する。

## 国際文化学部国際文化学科履修モデル ①グローバル文化モデル

【卒業後の進路】一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力を必要とする企業、行政機関など

1.	4目区分		1年	Ŧ			2	年			3	年			4	·年		合計	卒第
শ	4日区分	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		台訂	要作
	キリスト教	キリスト教概説	2	キリスト教学	2													4	4
Ν	自己開発と	基礎セミナー	2	発展セミナー	2					キャリアデザイン3a	2	キャリアデザイン3b	2					10	
G		キャリアデザイン1a	2	キャリアデザイン1b	2													12	6
U 教	11 0 11 11	現代社会と経済	2	国際関係論入門	2	国際政治学	2	企業と社会	2	国際社会問題	2	文明論	2						
養	社会的教 養			スポーツ初級A	1													13	1
スタ	及																		
シ		日本語表現	2																
ダ	言語とコ	基礎英語1	1	基礎英語2	1														
l F		英会話1	1	英会話2	1													10	1
科	ション	入門ドイツ語1	1	入門ドイツ語2	1														
目		基礎ドイツ語1	1	基礎ドイツ語2	1														
	情報処理	情報処理基礎	2															2	
						国際文化理解英語1	1	国際文化理解英語2	1	TOEIC英語入門	1	TOEIC英語基礎2	1	ビジネス英語1	1	ビジネス英語2	1		
ᄯᇄ	国際コミュ ニケーショ					時事ドイツ語1	1	時事ドイツ語2	1	TOEIC英語基礎1	1								
学部 共通	ンスキル					応用ドイツ語1	1	応用ドイツ語2	1	実践ドイツ語1	1							25	1
科目										実践ドイツ語2	1							-	
		国際文化論		日本文化論	2	キリスト教文化論1	2	キリスト教文化論2	2										
	科目	日本史概説		グローバル社会文化論	2														_
		英語演習1	1	英語演習2	1	英語演習3	1	英語演習4	1	人間行動論	2	多文化教育論	2						
						英語演習5	-	英語演習6	1	比較社会心理学	2								
学科	基幹科目					異文化コミュニケーション論	2	比較文化社会論2	2									20	1
						比較文化社会論1	2												
						文化マネジメント論	2												▙
グロ-	ーバル文化					アメリカ社会文化論	2	アメリカ政治経済論	2	ヨーロッパ地域文化論C	2	日欧交渉史	2	文化変容論	2				
	展開科目					ヨーロッパ地域文化論A	2	ヨーロッパ地域文化論B	2	環太平洋地域文化論	2	グローバル経済論	2						
										グ <sup>*</sup> ローハ <sup>*</sup> ル・ヒ <sup>*</sup> シ <sup>*</sup> ネスコミュニケーション	2								
	アジア文化									日本文化史	2	日本の思想	2					26	2
	展開科目											日本アジア交流史	2		-				
国際	協力関連科																		
	目						_									- mb 1 11 1			╄
淨	資料目					国際文化基礎演習1	2	国際文化基礎演習2	2	国際文化演習		国際文化演習		国際文化演習		国際文化演習	8	12	1
É	自由選択																		1
	合 計		21		18		21		17		20		15		3		9	124	12

注)アミカケは必修科目を示す。

## 国際文化学部国際文化学科履修モデル② 日本アジア文化モデル

【卒業後の進路】一般企業、アジアを中心に展開する国際企業、観光・航空・流通などの企業、行政機関など

1.			1年	Ę.			2	!年			3	年			4	·年		ᄉᆗ	卒業
个	↓目区分	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		合計	要作
N	キリスト教	キリスト教概説	2	キリスト教学	2													4	4
G	自己開発と	基礎セミナー	2	発展セミナー	2					キャリアデザイン3a	2	キャリアデザイン3b	2					12	6
U	自己理解	キャリアデザイン1a	2	キャリアデザイン1b	2													12	0
教 養	社会的教			日本文学史	2	日本文学	2	日本思想史	2	世界の近現代史	2	文明論	2					12	12
食ス	養			中国文化入門	2													12	12
タ		日本語表現	2																
ンダ	言語とコ	基礎英語1	1	基礎英語2	1														
7		英会話1	1	英会話2	1													10	10
ド	ション	入門中国語1	1	入門中国語2	1														
科 目		基礎中国語1	1	基礎中国語2	1														
Н	情報処理	情報処理基礎	2															2	2
		コミュニケーション中国語1		コミュニケーション中国語2		国際文化理解英語1	1	国際文化理解英語2	1	ビジネス英語1	1	ビジネス英語2	1						1
	国際コミュ		1		1	時事中国語1	1	時事中国語2	1	実践中国語1	1	実践中国語2	1						
学部 共通	ニケーショ ンスキル					応用中国語1	1	応用中国語2	1									24	16
科目																		24	10
	国際理解	国際文化論	2	日本文化論	2	キリスト教文化論1	2	キリスト教文化論2	2										
	科目	日本史概説	2	グローバル社会文化論	2														
		英語演習1	1	英語演習2	1	英語演習3	1	英語演習4	1	現代芸術論	2	観光文化論	2						
						英語演習5	1	英語演習6	1	情報文化論	2								
学科	基幹科目					異文化コミュニケーション論	2	比較文化社会論2	2									20	18
						比較文化社会論1	2	2											
						文化マネジメント論	2												
グロ-	ーバル文化									グ <sup>*</sup> ローハ <sup>*</sup> ル・ヒ <sup>*</sup> シ <sup>*</sup> ネスコミュニケーション	2	グローバル経済論	2	文化変容論	2				
展	<b>開科目</b>																		
						日本文化史	2	日本社会論	2	日中関係論	2	日本のポップカルチュアとアジア	2	中国社会経済論	2				
日本	アジア文化					日本アジア交流史	2	現代中国事情	2	アジアの商習慣	2	南アジア文化社会論	2					28	26
围	開科目							韓国文化社会論	2	現代アジア文化社会論	2							40	20
国際	協力関連科																		
	目																		
:=	習科目					国際文化基礎演習1	2	国際文化基礎演習2	2	国際文化演習		国際文化演習		国際文化演習		国際文化演習	8	10	1.0
伊	1014日																	12	12
É	由選択																		18
	合計		20		20		21		19		18		14					124	124

注)アミカケは必修科目を示す。

## 国際文化学部国際協力学科履修モデル ①文化協力モデル

【卒業後の進路】国際協力機関、国際活動を展開する企業、一般企業、NPO・NGOなど

1.	1000		14	Ŧ			2	!年			3	年			4	年		<b>∧</b> =L	卒業
17-	科目区分	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		合計	要件
	キリスト教	キリスト教概説	2	キリスト教学	2													4	4
N	自己開発と	基礎セミナー	2	発展セミナー	2					キャリアデザイン3a	2	キャリアデザイン3b	2					10	C
G U	自己理解	キャリアデザイン1a	2	キャリアデザイン1b	2													12	6
教		中国文化入門	2	英米文化入門	2	世界の近現代史	2	国際社会問題	2	現代社会と経済	2	比較宗教学	2						
養	社会的教 養			スポーツ初級A	1													13	12
ス	良																		ĺ
タン		日本語表現	2																
ダ	言語とコ	基礎英語1	1	基礎英語2	1														ĺ
l L°	ミュニケー	英会話1	1	英会話2	1													10	10
科	ション	入門フランス語1	1	入門フランス語2	1														ĺ
目		基礎フランス語1	1	基礎フランス語2	1														
	情報処理	情報処理基礎	2															2	2
	- FAN					国際文化理解英語1	1	国際文化理解英語2	1	TOEIC英語入門	1			ビジネス英語1	1	ビジネス英語2	1		
*** +=	国際コミュ ニケーショ					時事フランス語1	1	時事フランス語2	1	TOEIC英語基礎1	1	TOEIC英語基礎2	1						ı
学部 共通	ンスキル					応用フランス語1	1	応用フランス語2	1	実践フランス語1	1							25	16
科目										実践フランス語2	1							20	10
		国際文化論	2	日本文化論	2	キリスト教文化論1	2	キリスト教文化論2	2										i
	科目	日本史概説		グローバル社会文化論	2														<u> </u>
		英語演習1	1	英語演習2	1	英語演習3	1	英語演習4	1										
学科	基幹科目					英語演習5	1	英語演習6	1									20	18
, ,	TEETI III			国際地理論	2	国際関係論	2	国際協力論	2	国際社会学	2	ジェンダー論	2					20	10
						開発社会学	2			マイノリティー論	2								<u> </u>
国際	徐文化協力					国際移民論		アジア政治論		国際機構論	2			国際企業論	2				i
国际	展開科目					日中関係論	2	アジア経済論	2	アジア地域研究1	2	アジア地域研究2	2	文化変容論	2				ı
																			ı
	文化支援					異文化コミュニケーション論	2	多文化共生社会論	2	文化マネジメント論	2	多文化教育論	2						ı
	展開科目																	26	26
国際	文化関連科																		ı
	目																		ı
留学	単位振替科																		ĺ
	目																		<u> </u>
洹	<b>電</b> 習科目					国際協力基礎演習1	2	国際協力基礎演習2	2	国際協力演習		国際協力演習		国際協力演習		国際協力演習	8	12	12
																		_	
É	自由選択																		18
	合計		21		20		21		19		18		11		5		9	124	124

注)アミカケは必修科目を示す。

## 国際文化学部国際協力学科履修モデル ②文化支援モデル

【卒業後の進路】一般企業、アジアを中心に国際展開する企業、観光・航空などの企業、NPO・NGO、行政機関など

1.			14	Ŧ.			2	!年			3	年			4	年		<b>∧</b> =1	卒業
₹:	目区分	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		合計	卒業 要件
	キリスト教	キリスト教概説	2	キリスト教学	2													4	4
N G	自己開発と	基礎セミナー	2	発展セミナー	2					キャリアデザイン3a	2	キャリアデザイン3b	2					1.0	
Ü		キャリアデザイン1a	2	キャリアデザイン1b	2													12	б
教 養 ス	社会的教養	中国文化入門	2	英米文化入門	2	現代社会と経済	2	国際社会問題	2			比較宗教学	2	企業と社会	2		Î	12	12
タ		日本語表現	2																
ンダ	言語とコ	基礎英語1	1	基礎英語2	1														ı
7	ミュニケー	英会話1	1	英会話2	1													10	10
ド	ション	入門フランス語1	1	入門フランス語2	1														i
科目		基礎フランス語1	1	基礎フランス語2	1														ı
н	情報処理	情報処理基礎	2															2	2
						国際文化理解英語1	1	国際文化理解英語2	1	TOEIC英語入門	1			ビジネス英語1	1	ビジネス英語2	1		
	国際コミュ ニケーショ					時事フランス語1	1	時事フランス語2	1	TOEIC英語基礎1	1	TOEIC英語基礎2	1						ı
学部 共通	ンスキル					応用フランス語1	1	応用フランス語2	1	実践フランス語1	1							200	1.0
共进 科目	271,77								1	実践フランス語2	1							26	16
	国際理解	国際文化論	2	日本文化論	2	キリスト教文化論1	2	キリスト教文化論2	2										ı
	科目	日本史概説	2	グローバル社会文化論	2														i
		英語演習1	1	英語演習2	1	英語演習3	1	英語演習4	1										
224 T.	i # #AN □					英語演習5	1	英語演習6	1									20	1.0
子作	基幹科目			国際地理論	2	国際関係論	2	国際協力論	2	国際社会学	2	ジェンダー論	2					20	18
						開発社会学	2			マイノリティー論	2								ı
						国際移民論	2			アジア地域研究1	2		2						
国際	《文化協力 《開科目																		ı
л	KI#114 D																		ı
	<u></u>					異文化コミュニケーション論	2	多文化共生社会論	2	世界遺産と保全	2	国際環境文化論	2	比較地域生活史	2				ı
国際	於文化支援 展開科目					文化マネジメント論	2	国際人権論	2			企業文化論	2					0.0	0.0
л	KI#114 D											多文化教育論	2					26	26
国際	文化関連科							NPO·NGO論	2										1
	目																		İ
留学.	単位振替科																7		ĺ
	目																		ı
·-	5 5 5 4 1 1 1					国際協力基礎演習1	2	国際協力基礎演習2	2	国際協力演習		国際協力演習		国際協力演習		国際協力演習	8	1.0	1.0
淳	買科目																	12	12
É	自由選択																T		18
	合計		21		19		21		20		14		15		5		Q	124	124

注)アミカケは必修科目を示す。

時限	年配	I <u>国際文化学科 時間割∙</u> 月	火	*	*	•
1	次当 1	聖書と人間 曙102	化学 曙502	スポーツ初級A 体育館	哲学 曙201	基礎英語1 日601、602
	·	現代社会と法律 曙301 生態学 曙101 臨床心理学 曙302 スポーツ初級A テニスコート スポーツ初級A 体育館 基礎セミナー 曙608~611	スポーツ初級A テニスコート 英会話1 日704、705 入門韓国語1 曙617	英会話1 日605、606	日本文学 曙102 宗教社会学 曙202 基礎統計学 曙502 現代社会と法律 翼302 健康の科学 曙103 教育心理学概論 1 曙401 スポーツ初級A 体育館 基礎セミナー 曙608~611	英語演習1 日403、606
	2	国際文化理解英語1 曙405 日常中国語1 曙509	英語演習3 日403、602 アメリカ社会文化論 曙401 現代アジア文化社会論 曙502	生徒・進路指導論 曙301 キリスト教文化論1 曙602 マイノリティ論 曙304 日中関係論 曙403	英語演習3 日403、602 文化交流論 曙603	スポーツ中級A 体育館 異文化コミュニケーション論 曙 201
	3	実践ドイツ語1 日704 実践フランス語1 日705 実践スペイン語1 日702 実践中国語1 日605		キャリアデザイン3a 曙201〜202	日本地域史論 曙602	中国語検定読解入門 曙406
	4					
2	1	聖書と人間 曙402 日本国憲法 曙301 世界史 曙102 地域商業まちづくり学 曙302 スポーツ初級A テニスコート 入門ドイツ部1 日704 入門フランス語1 日705 入門スペイン語1 日503 入門中国語1 日606	国際政治学 曙201 基礎韓国語1 曜617 日本史概説 曙401	心理学概論 曙602 歴史観光まちづくり学 曙603 スポーツ初級A 体育館 情報処理基礎 曙506~509	企業と社会 曙102 滅災福祉まちづくり学 曙302 哲学 曙201 心理学概論 曙401 国際社会問題 曙203 マ和学入門 曙503 スポーツの科学 曙103 中国文化入門 曙603 基礎イツ語1 曙611 基礎イプシス語1 曙609 基礎スペイン語1 曙403 基礎中国語1 曙616	世界史 曙101 基礎英語1 日601、602 英語演習1 日403、606
	2	キャリアデザイン2a 曙602 スポーツ中級A 体育館 ビジネス英語1 曙403 国際文化基礎演習1 曙611~614	キリスト教人間学 曙301 スポーツ中級A テニスコート 英語演習5 日403、602 中国文化社会論 曙301 ジェンダー論 曜202 キリスト教倫理 曙502	英語演習5 日403、602	スポーツ中級A 体育館 国際文化基礎演習1 曙611〜614 日本アジア交流史 曙501	スポーツ中級A 体育館 比較文化・社会論1 曙202 英米文学講義1 曙402
	3		17八	キャリアデザイン3a 曙201~202	世界遺産と保全 曙605	
	4					
3	1	数学 曙103	文化人類学入門 曙202	  心理学概論	世界の近現代史 曙203	国際社会問題 曙603
		日本国憲法 曙201 国際政治学 曙203 教職論 曙301 生物学 曙302 日本史 曙402 日本思想史 曙502 心理学概論 曙503 地球科学概論 第302 社会学入門 曙101 スポーツ初級A 体育館 スポーツ初級A テニスコート	日本語表現上級 曙610 キリスト教概説 日301 キャリアデザイン1a 日302		コミュニケーション中国語1 曜406	現代社会と経済 曙101
	2	キリスト教と文学 曙102 キャリアデザイン2a 曙602 時事ドイツ語1 曙608 時事フランス語1 暖609 時事ヌペイン暦1 暖610 時事本ペロ語1 曜611	東西交渉史 希082 英米文学概論1 曙403 ヨーロッハ地域文化論C 曙304 文化マネジメント論 曙303	TOEIC英語実践1 曙612	応用ドイツ語1 曜608 応用フランス語1 曜405 応用スペイン語1 曜403 応用中国語1 曜404	情報文化論 曙402 ヨーロッパ文化総論 曙304 日本の民俗学 曙501
	3	グローバル・ビジネス・コミュニ ケーション 曙501		キャリアデザイン3a 曙201~202 中国社会経済論 曙303	比較文化行動論 曙305	
	4					
4	1	心理学概論 曙503 宗教社会学 曙101 現代社会と法律 曙602 現代社会と経済 曙504 生物学 曙302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301	文化人類学入門 曙202 世界史 曙203 キリスト教研説 日301 キャリアデザイン1a 日302		陶芸倫 曙301 日本語表現 曙608~609	国際文化論 希301
			留学英語中級 曙604 TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 日404		教育相談 曙401 比較宗教論 曙303 比較社会心理学 曙601 メディア文化論 希033	キャリアデザイン2a 曙603 日本文化史 曙602 人間行動論 曙401
		文化変容論 曙203		アジアの商習慣 曙303		
	4					
5	1	ボランティア学 曙301	国際文化理解実践論1 曙303			文化人類学 曙502
	2		国際環境論 曙101		現代芸術論 曙301	死生学 曙101
	3	環太平洋地域文化論 曙602				
	4	国際文化演習 曙506~509	国際文化演習 曙506~509		国際文化演習 曙506~509	国際文化演習 曙506~509
	Ī	1	**			1

	1	インターンシップ1 学外
集	2	インターンシップ2 学外
中	3	ボランティア演習 学外
講	4	陶芸演習 陶芸館
義	5	特別活動論 曙502
	6	

1	<b>±</b>	*	水	火	<u>図際文化学科時間割◆</u> 月	年配 次当	時限
東京	基礎英語2 日601、602						1
### 17   1   1   1   1   1   1   1   1   1		宗教社会学 曙202 日本国憲法 麗302 健康の科学 曙103 現代社会と法律 曙302 現代社会と教育 曙502 教育心理学概論2 曙401 スポーツ初級B 体育館	スポーツ初級B 体育館 日本語表現上級 曙608	スポーツ初級B テニスコート 英会話2 日704、705			
# 2	スポーツ中級B 体育館 ビジュアル中国語 曙406	英語演習4 日403、602	キリスト教文化論2 曙602	アメリカ政治経済論 曙401	キリスト教と文化 曙102 国際文化理解英語2 曙404 日常中国語2 曙610	2	
主張学 項101 世界史 項101 世界史 第101 世界史 第101 世界史 第101 世界史 第101 世界史 第101 世界史 第101 大門 7-12-1 大田 1970 大田 1970 大田 1970 大田 1970 大田 1970 大門 7-12-1 大田 1970 大田 197			キャリアデザイン3b 曙201〜202		実践フランス語2 日705 実践スペイン語2 日702		
世界交 第102 (大水・少和総理 チェスコート 大川・グリング (大水・グリング  (大水・グリング (大水・グリン (大水・グ) (大水						4	
スポーツ中級8 体育館	基礎英語2 日601,602 英語演習2 日403,606	減災福祉まちづくり演習 曙501 哲学史 曙201 心理学概論 曙401 国際社会問題 曙203 平和学入門 曙503 天ポーツの科学 曙103 考古学入門 曙603 日本国憲法 曙302 日本思恵史 曙602 基礎ドイシ語2 曙601 基礎フランス語2 曙609 基礎スイン語2 曙403	歴史観光まちづくり演習 曙617 心理学概論 曙602 手話入門 曙306	比較宗教学 曙505 スポーツ初級B テニスコート 基礎韓国語2 曙617 TOEIC英語入門 日701	世界史 曙102 スポーツ初級B テニスコート 地域商業まちづくり演習 曙601 入門ドイツ語2 日704 入門フランス語2 日705 入門スペイン語2 日503	1	2
3   1 数理科学 曜103   文化人類学入門 曜202 日本語表現上級 曜502 日本語表現上級 曜502 日本語表現上級 曜503 日本語表現上級 曜503 日本語表現上級 曜503 日本記表現上級 曜503 日本記表記 曜503 日本記表記 曜503 日本記表記 曜503 日本記表記 曜503 日本記表記 曜503 日本記表記 曜503 日本記述 『503 日本記述	スポーツ中級B 体育館 11~614 情報概論 曙303 比較文化・社会論2 曙602 英米文学講義2 曙402	国際文化基礎演習2 曙611~614	英語演習6 日403、602	道徳教育論 曙301	スポーツ中級B 体育館 ビジネス英語2 曙403	2	
数型科学   第103   文化人類学入門   第202   日本語表現上級   第602   日本語表現上級   第504   日本語表現上級   第504   日本語表現上級   第604   日本記程史   第604   日本記程史   第604   日本記程史   第604   日本記程史   第604   日本記程史   第604   日本社会論   第792   日本社会論   第792   第604   日本社会論   第604   日本社会論   第604   日本社会論   第604   日本社会論   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   日本社会》   日本社会》   日本社会》   日本社会》   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   第605   日本社会》   第604   日本社会》   第604   日本社会》   第605   日本社会》   第604   日本社会》   第605   日本社会》   第604   日本社会》   第605   日本社会》   第604   日本社会》   第605   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   第604   日本社会》   第604   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》   日本社会》   日本社会》   第604   日本社会》			キャリアデザイン3b 曙201~202	日欧交流史 曙401		3	
現代社会と接種 曜201 国際関係論論 第301						4	
時事ドイツ語2 曜608	国際社会問題 曜101 現代社会と経済 曙603 国際地理論 曙512	世界史 曙203	手話基礎 曙306	日本語表現上級 曙610 キリスト教学 日301	現代社会と法律 曙201 国際関係協会 曙301 生物学 曙302 日本史 曙402 日本史 曙402 日本史 曙402 山本学概論 曙503 地球物理学概論 麗302 スポーツ初級日 休育館 スポーツ初級日 佐育館 スポーツ初級日 降102 宗教社会学 曙101	1	3
4	日本社会論 曙501 平和学 曙604	応用フランス語2 曙405 応用スペイン語2 曙403 応用中国語2 曙404	TOEIC英語実践2 曙604 地中海文化圏論 曙504	英米文学概論2 曙604	時事ドイツ語2 曙608 時事フランス語2 曙609 時事スペイン語2 曙610 時事中国語2 曙611		
4 1 心理学概論 曙503 世界の近現代史 曙203 文化人類学入門 曙202 日本国憲法 曙201 現代社会と経済 曜504 生物学 曜302 ヤリアデザイン1b 日302 セカッド 曜302 物理学 翼302 TOEIC英語基礎2 曙612 フジア言語入門2 曙605 コンピュータ技法2 日404 第令 できます 中国の3 現代中国事情 希082 日本の思想 明 7・ジア就業事情 曜403 フジア就業事情 曜403 タ文化教育論 曜505	とアジ	日本のポップカルチュアとアジ ア 曙501	キャリアデザイン3b 曙201~202	グローバル経済論 曙617	イスラム文化圏論 曙605		
アジア言語入門2 曜605     コンピュータ技法2 日404     宗教と平和 曜303 現代中国事情 希082       3     アジア就業事情 曜403       5     1 環境科学 曙301     国際文化理解実践論2 曙303       2     多文化教育論 曙505	英米文化入門 曙103 9 日本文化論 希301			文化人類学入門 曙202 キリスト教学 日301	世界と近現代史 曙603 日本国憲法 曙201 現代社会と経済 曙504 生物学 曙302		4
4	D1 キャリアデザイン2b 曙603 日本の思想 曙602	宗教と平和 曙303				2	
5 1 環境科学 曙301 国際文化理解実践論2 曙303 多文化教育論 曙505		アジア就業事情 曙403				3	
2 多文化教育論 曙505						4	
2 多文化教育論 曙505				国際文化理解実践論2 曙303	環境科学 曙301	1	5
		多文化教育論 隈505					-
'		> > 103> C mm 89000					
4 国際文化演習 曙506~509 国際文化演習 曙506~509 国際文化演習 曙506~509 国際文化演習 曙506~509 国際文化演習 電506~509 国 電5	509 国際文化演習 曙506~509						

集	1	インターンシップ1 学外
中	2	インターンシップ2 学外
講	3	ボランティア演習 学外
義	4	スポーツ上級A 学外
我	5	スポーツ上級B 学外

		<b>邓国際協力学科 時間割</b> ・	<町期>	T	7	T
時限	年配 次当	Я	火	*	*	<b>±</b>
1	1	聖書と人間 曙102 現代社会と法律 曜301 生態学 曜101 臨床心理学 曙302 スポーツ初級A テニスコート スポーツ初級A 体育館	化学 曙502 スポーツ初級A テニスコート 入門韓国語1 曙617	スポーツ初級A 体育館 基礎セミナー 日602~606	哲学 曙201 日本文学 曙102 宗教社会学 曙202 基礎統計学 曙502 現代社会と法律 翼302 健康の科学 曙103 教育心理学概論1 曙401 スポーツ初級A 体育館	
	2	国際文化理解英語1 曙403 日常中国語1 曙510	アメリカ社会文化論 曙401 現代アジア文化社会論 曙502 国際社会学 曙602	生徒・進路指導論 曙301 キリスト教文化論1 曙602 マイノリティ論 曙304 英語演習3 日402、403 日中関係論 曙403	国際移民論 曙301 文化交流論 曙603	スポーツ中級A 体育館 異文化コミュニケーション論 曙 201 国際機構論 曙503
	3	実践ドイツ語1 日704 実践フランス語1 日705 実践スペイン語1 日702 実践中国語1 日605		キャリアデザイン3a 曙201〜202		中国語検定読解入門 曙406
	4					
2	1	聖書と人間 曙402 日本国憲法 曙301 世界史 曙102 地域商業まちづくり学 曙302 スポーツ初級A テニスコート 入門ドイツ語1 日704 入門フランス語1 日705 入門スイン語1 日503 入門中国語1 日606	国際政治学 曙201 基礎韓国語1 曙617 日本史概説 曙401	心理学概論 曙602 歴史観光まちづくり学 曙603 スポーツ初級A 体育館 基礎英語1 日702、704	企業と社会 曙102 減災福祉まちづくり学 曙302 哲学 曙201 心理学概論 曙401 国野社会問題 曙203 平和学入門 曙503 スポーツの科学 曜103 中国文化入門 曙603 基礎ドイツ語1 曙601 基礎アランス語1 曙609 基礎・イン語1 曙403 基礎・国話1 曙403	世界史 曙101 情報処理基礎 曙618、605
	2	キャリアデザイン2a 曙602 スポーツ中級A 体育館 ビジネス英語1 曙403 国際関係論 希301	キリスト教人間学 曙301 スポーツ中級A テニスコート ジェンダー論 曙202 キリスト教倫理 曙502	国際協力基礎演習1 日602~606	スポーツ中級A 体育館	スポーツ中級A 体育館 比較文化・社会論1 曙202 英米文学講義1 曙402
	3		国際企業論 曙609	キャリアデザイン3a 曙201~202	アジア地域研究1 曙405 世界遺産と保全 曙605	
	4					
3	1	数学 曙103 日本国憲法 曙201 国際政治学 曙203 教職論 曙301 生物学 曙302 日本史 曜302 日本思想史 曙502 心理学概	文化人類学入門 曙202 日本語表現L級 曙610 キリスト教研 13001 キャリアデザイン1a 日302	心理学概論 曙602	世界の近現代史 曙203 コミュニケーション中国語1 曙406 英会話1 曙305、306	国際社会問題 曙603 現代社会と経済 曙101 英語演習1 曙305、613
	2	キリスト教と文学 曙102 キャリアデザイン2a 曙602 時事ドイツ語1 曙608 時事フランス語1 曙609 時事スペイン語1 曙610 時事中国語1 曙611	農村発展論 希083 英米文学概論: 曙403 文化マネジメント論 曙303	TOEIC英語実践1 曙612	応用ドイツ語1 曙608 応用フランス語1 曙405 応用スペイン語1 曙403 応用中国語1 曙404	国際福祉論 曙514 ヨーロッパ文化総論 曙304
	3			キャリアデザイン3a 曙201~202	比較地域生活史 曙515	
	4					
4	1	心理学概論 曙503 宗教社会学 曙101 現代社会と法律 曙602 現代社会と経済 曙504	文化人類学入門 曙202 世界史 曙203 キリスト教概説 日301 キャリアデザイン1a 日302		陶芸論 曙301 日本語表現 曙305	国際文化論 希301
		生物学 曙302 地球環境学 麗302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301				
	2	生物学 曙302 地球環境学 翼302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301 キャリアデザイン2a 曙602 アジア言語入門1 曙605	留学英語中級 曙604 TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 閉404 英語演習5 曙305、306		教育相談 曙401 比較宗教論 曙403 メディア文化論 希033	キャリアデザイン2a 曙603 開発社会学 曙505
	3	生物学 曙302 地球環境学 翼302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301 キャリアデザイン2a 曙602	TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 日404		比較宗教論 曙403	
	3 4	生物学 曙302 地球環境学 翼302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301 キャリアデザイン2a 曙602 アジア言語入門1 曙605 文化変容論 曙203	TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 日404 英語演習5 曙305、306		比較宗教論 曙403	開発社会学 曙505
5	3 4	生物学 曙302 地球環境学 翼302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301 キャリアデザイン2a 曙602 アジア言語入門1 曙605	TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 日404 英語演習5 曙305、306		比較宗教論 曙403	
5	3 4 1 2	生物学 曙302 地球環境学 翼302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301 キャリアデザイン2a 曙602 アジア言語入門1 曙605 文化変容論 曙203	TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 日404 英語演習5 曙305、306		比較宗教論 曙403	開発社会学 曙505 文化人類学 曙502
5	3 4 1 2	生物学 曙302 地球環境学 翼302 世界の近現代史 曙603 教育原理 曙301 キャリアデザイン2a 曙602 アジア言語入門1 曙605 文化変容論 曙203	TOEIC英語基礎1 曙612 コンピュータ技法1 日404 英語演習5 曙305、306		比較宗教論 曙403	開発社会学 曙505 文化人類学 曙502

	1	インターンシップ1 学外
集	2	インターンシップ2 学外
中	3	ボランティア演習 学外
講	4	陶芸演習 陶芸館
義	5	特別活動論 曙502
	6	フィールドワーク 学外

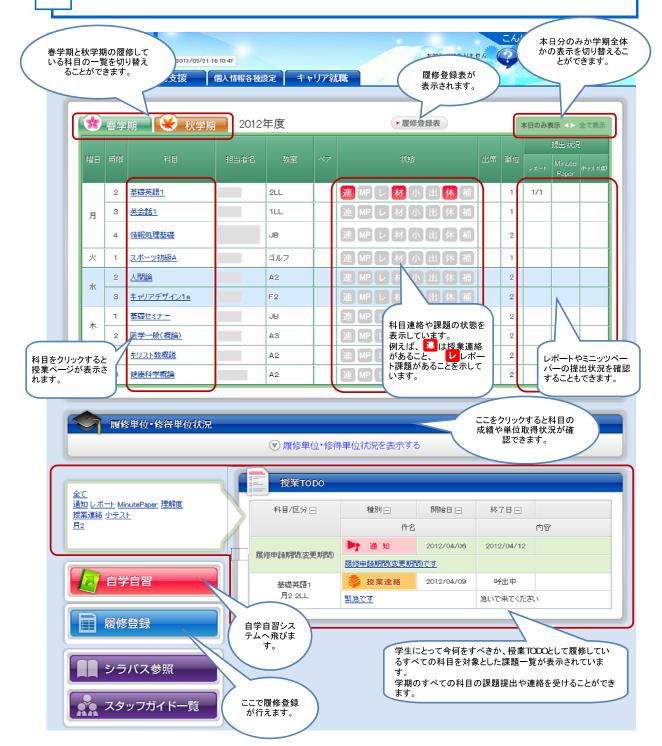
時限	年配 次当	<u>国際協力学科 時間割・</u> 月	火	*	*	<b>±</b>
1	八 3	科学史 曙101	文明論 曙103	歴史観光まちづくり学 曙603	哲学史 曙201	
		スポーツ初級B 体育館	化学と社会 曙502 スポーツ初級B テニスコート 入門韓国語2 曙617	人類学 曙102 スポーツ初級B 体育館 日本語表現上級 曙608 発展セミナー 日602~606	日本文学史 曙101 宗教社会学 曙202 日本国憲法 翼302 健康の科学 曙103 現代社会と法律 曙302 現代社会と教育 曙502 教育心理学概論2 曙401 スポーツ初級B 体育館	
	2	スポーツ中級B 体育館 キリスト教と文化 曙102 国際文化理解英語2 曙403 日常中国語2 曙510 韓国文化社会論 曙613	NPO・NGO論 曙404 アメリカ政治経済論 曙401	留学英語上級 日301 キリスト教文化論2 曙602 英文学史 曙517 英語演習4 日402、403	アジア政治論 曙303	スポーツ中級B 体育館 ビジュアル中国語 曙406
	3	実践ドイツ語2 日704 実践フランス語2 日705 実践スペイン語2 日702 実践中国語2 日605	企業文化論 曙402	キャリアデザイン3b 曙201~202	アジア地域研究2 曙405	
	4					
2	1	生態学 曙101 世界史 曙102 スポーツ初級B テニスコート 地域商業まちづくり演習 曙601 入門ドイツ語2 日704 入門フランス語2 日705 入門スペイン語2 日503 入門中国語2 日606	国際関係論入門 曜201 比較宗教学 曜505 スポーツ初級B テニスコート 基礎韓国語2 曜617 TOEIC英語入門 日701 宗教と人間 曙504	心理学概論 曙602 手話入門 曙306	企業と社会 曙102 減災福祉まちづくり演習 曙501 哲学史 曜201 心理学概論 曙401 国際社会問題 曙203 平和学入門 曙503 スポーツの科学 暗103 考古学入門 曙603 日本国憲法 曙302 日本思想史語の2 基礎イン話空 曙611 基礎フランス語2 曙609 基礎、ペイン話2 曙403 基礎中国語2 曙616	人權と社会 曙502 世界史 曙101
	2	キャリアデザイン2b 曙602 スポーツ中級B 体育館 ビジネス英語2 曙403 国際協力論 希301	スポーツ中級B 体育館 道徳教育論 曙301 国際環境文化論 曙605	スポーツ中級B 体育館 米文学史 曙517 国際協力基礎演習2 曙611~	スポーツ中級B 体育館 国際人権論 曙301	スポーツ中級B 体育館 情報概論 曙303 比較文化・社会論2 曙602 英米文学講義2 曙402
	3			キャリアデザイン3b 曙201~202		
	*					
3	1	数理科学 曙103 現代社会と法律 曙201 国際関係論為門 曙203 教育制度論 曙301 生物学 曙302 日本史 曙402 日本思想史 曙502 心地球物理学概論 曙503 地球物理学概論 環302 スポーツ初級B ケニスコート キリスト教史 曙102 宗教社会学 曙101 実用統計学 曙202	文化人類学入門 曜202 日本語表現上級 曙610 キリスト数学 日301 キャリアデザイン1b 日302	心理学概論 曙602 手話基礎 曙306 日本語表現上級 曙514	国際社会問題 曙502 世界史 曙203 コミュニケーション中国語2 曙 英会話2 曙615、306	国際社会問題 曜101 現代社会と経済 曜603 国際地理論 曜512 英語演習2 曙305、613
		キャリアデザイン2b 曙602 時事ドイツ語2 曙608 時事フランス語2 曙609 時事スペイン語2 曙610 時事中国語2 曙611 多文化共生社会論 曙618	英米文学概論2 曙604 開発経済学 曙303	上級まちづくり演習 曙601 TOEIC英語実践2 曙612	応用ドイツ語2 曙608 応用フランス語2 曙405 応用スペイン語2 曙403 応用中国語2 曙404	観光文化論 曙303 アジア経済論 曙501 平和学 曙604
	3	イスラム文化圏論 曙605		キャリアデザイン3b 曙201~202		
	4					
4		心理学概論 曙503 世界の近現代史 曙603 日本国憲法 曙201 現代社会と経済 曙504 生物学 曙302 物理学 翼302	世界の近現代史 曜203 文化人類学入門 曜202 キリスト教学 日301 キャリアデザイン1b 日302		陶芸倫 曙301 日本語表現 曙305	英米文化入門 曜103 日本文化論 希301
	2	キャリアデザイン2b 曙602 アジア言語入門2 曙605	TOEIC英語基礎2 曙612 コンピュータ技法2 日404 英語演習6 曙305、306		教育の方法と技術 曙401 宗教と平和 曙303	キャリアデザイン2b 曙603 国際文化支援論 曙505
	3					
	4					
5	1	環境科学 曙301	国際協力実践論2 曙303			
	2				多文化教育論 曙505	
	3					

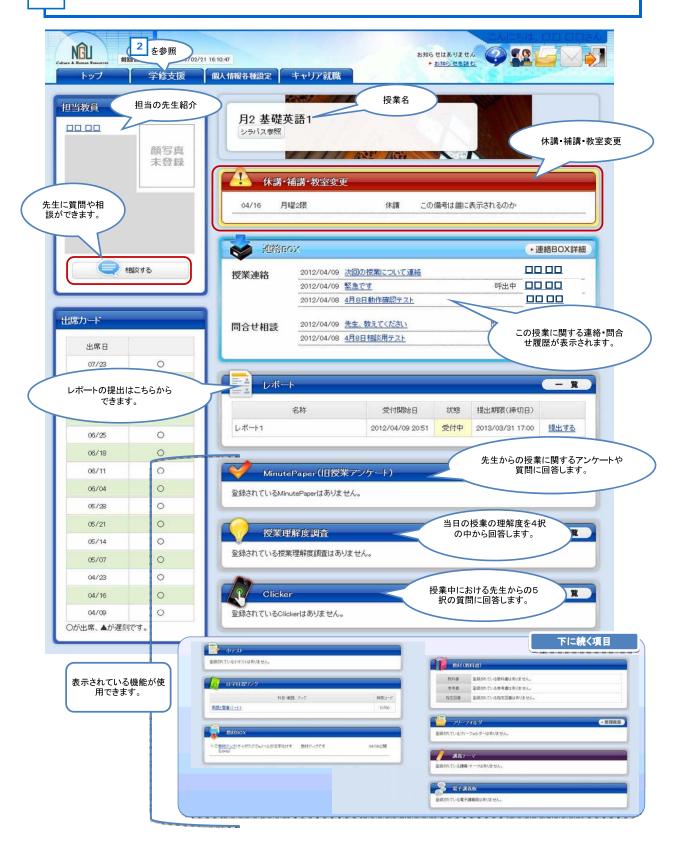
集	1	インターンシップ1 学外
中	2	インターンシップ2 学外
講	3	ボランティア演習 学外
義	4	スポーツ上級A 学外
我	5	スポーツ上級B 学外





学期単位で履修している科目の連絡や休講等の情報閲覧、 さらにはレポート課題の提出などが横断的に行えます。





### 名古屋学院大学海外協定校一覧(短期留学についての協定校を含む)

(12ヵ国・地域)

連番	地域	国名	英語名称	日本語名称	州·市	協定締結日
1	アジア	中国	PEKING U	北京大学	北京	05.6.29
	, . ,	中国	BEIJING NORMAL U	北京師範大学	北京	95.11.13
3		中国	HENAN U OF ECONOMICS AND	河南財経政法大学	鄭州	00.3.2
4		中国	NANJIN U	南京大学	南京	95.9.1
5		中国	NANKAI U	南開大学	天津	95.8.6
6		中国	NORTHWEST U	西北大学	西安	95.8.1
7		中国	TIANJIN FOREIGN STUDIES U	天津外国語学院大学	天津	95.8.1
8		中国	BEIJING U OF TECHNOLOGY	北京工業大学	北京	(短期留学のみ)
9		中国	EAST CHINA NORMAL U	華東師範大学	上海	05.3.3
10		中国	BEIJING FOREIGN STUDIES U	北京語言大学	北京	05.6.29
11		台湾	CHINESE CULTURE U	中国文化大学	台北	04.1.6
12		台湾	NATIONAL U OF KAOHSIUNG	国立高雄大学	高雄	08.10.30
13		韓国	DONG-EUI U	東義大学校	プサン	02.1.29
14		韓国	YONSEI U	延世大学	ソウル	(短期留学のみ)
15		韓国	KWANDONG U	関東大学校	カンウォンドウ	10.4.1
16		タイ	KHON KAEN U	コンケン大学	コンケン	04.12.27
17		フィリピン	ATENEO DE MANILA U	アテネオデマニラ大学	マニラ	06.7.18
18		フィリピン	U OF THE PHILIPPINES	フィリピン大学	マニラ	08.3.28
19		フィリピン	DE LA SALLE U-DASMARINAS	ラサール大学ダスマリニャス校		13.5.20
20		マレーシア	U KEBANGSAAN MALAYSIA	マレーシア国民大学	セランゴール	(短期留学のみ)
21	北米	カナダ	BROCK U	ブロック大学	トロント	01.11.21
22		カナダ	OKANAGAN C	オカナガン大学	ケロウナ	99.8.19
23		カナダ	KWANTLEN U C	クワントレン大学	バンクーバー	07.6.8
$\frac{23}{24}$		カナダ	GRANT MCEWAN C	グラントマキーワン大学	エドモントン	09.2.23
25		カナダ	ALGOMA U	アルゴーマ大学	スーサンマリー	09.6.8
26		カナダ	GEORGE BROWN C	ジョージブラウン大学	トロント	11.5.25
$\frac{20}{27}$		カナダ	CENTENIAL C	センテニアル大学	トロント	12.7.24
28		アメリカ	U OF ALASKA FAIRBANKS	アラスカ大学フェアハンクス校	アラスカ	87.3.25
29		アメリカ	ALASKA PACIFIC U	アラスカパシフィック大学	アラスカ	88.12.16
30		アメリカ	BENEDICTINE U	ベネディクティン大学	イリノイ	97.11.19
31		アメリカ	ILLINOIS STATE U	イリノイ州立大学	イリノイ	97.7.28
32		アメリカ	NORTH CENTRAL C	ノースセントラル大学	イリノイ	96.8.1
33		アメリカ	U OF EVANSVILLE	エバンズビル大学	インディアナ	95.1.20
34		アメリカ	COE C	コー大学	アイオワ	90.6.25
35		アメリカ	KALAMAZOO C	カラマズー大学	ミシガン	93.3.25
36		アメリカ	MADONNA U	マドンナ大学	ミシガン	92.11.17
37		アメリカ	WESTERN MICHIGAN U	ウェスタンミシガン大学	ミシガン	02.1.30
			U OF NORTH CAROLINA AT	ノースキャロライナ大学		
38		アメリカ	WILMINGTON	ウィルミントン校	ノースキャロライナ	90.12.26
39		アメリカ	PACIFIC U	パシフィック大学	オレゴン	90.9.3
40		アメリカ	U OF MEMPHIS	メンフィス大学	テネシー	90.7.13
41		アメリカ	MIDDLE TENNESSEE STATE U	ミドルテネシー州立大学	テネシー	05.5.18
42		アメリカ	AUSTIN C	オースティン大学	テキサス	90.6.27
43		アメリカ	INDIANA U OF PENNSYLVANIA	ペンシルバニア・インディアナ大学	ヘ゜ンシルハ゛ニア	06.10.9
44		アメリカ	CEDER CREST COLLEGE	シダークレスト大学	ヘ゜ンシルハ゛ニア	90.9.6
45		アメリカ	RANDOLPH-MACON C	ランドルフ・メイコン大学	バージニア	91.6.28
46		アメリカ	MINNESOTA STATE U	ミネソタ州立大学	ミネソタ	01.10.24
40		1 / 2 /4	MOORHEAD	モアヘッド校	ベロング	01.10.24
47		アメリカ	U OF CALIFORNIA, SANTA CRUZ	カリフォルニア大学	カリフォルニア	07.7.23
48		アメリカ	BOWLING GREEN STATE U	サンタクルーズ校 ボーリンググリーン州立大学	オハイオ	09.12.8
48		アメリカ	WASHINGTON U	ワシントン大学	ミズーリ	(短期留学のみ)
		アメリカ	U OF TOLEDO	トリード大学	オハイオ	(短期留学のみ)
50 51		アメリカ	U OF IOWA	アイオワ大学	アイオワ	(短期留学のみ)
52				フェリス州立大学	ミシガン	+
53		アメリカアメリカ	FERRIS STATE U FAIRLEIGH DICKINSON U	フェアレイディキンソン大学	ニューシャージー	(短期留学のみ) (短期留学のみ)
54~76		アメリカ	US. UMAP加盟大学23校	アメリカ・ユーマップ(23校)	米国内各地	(短期留子のみ)
	1100					
77	オセアニア	オーストラリア	MACQUARIE U	マコーリー大学	シドニー	91.2.25
78		オーストラリア	U OF NEW ENGLAND	ニューイングランド大学	シドニー	02.5.8
79		オーストラリア	QUEENSLAND U	クイーンズランド大学	ブリスベン	02.11.28
80		ニューシ゛ーラント゛	CHRISTCHURCH C OF ENGLISH	クライストチャーチ・カレッジ・ オブ・イングリッシュ	クライストチャーチ	03.5.27
81	ヨーロッハ゜	イギリス	CLOUCESTERSHIRE C	グロスターシャー大学	チェルトナム	98.6.23
82		ポーランド	POLISH-JAPANESE INSTITUTE	ポーランド日本情報工科大学	ワルシャワ	13.2.23
<b>0</b> 2			OF INTERNATIONAL			

## 名古屋学院大学 FD研修会実施一覧(2011年度~2013年度)

2011年度		
	参加者数	
2	種テ日 発 概参 で 大田 ・ 大田・ ・ ・ 大田・ ・ ・ 大田・ ・ ・ 大田・ ・ ・ 大田・ ・ ・ ・	<b>ワークショップ</b> 「学生をのせる授業」 11月9日 1. 商学部准教授 林淳一 2. リハビリテーション学部教授 藤森 修 3. 外国語学部教授 樋口勇夫 4. スポーツ健康学部教授谷口 篤 5. 経済学部講師 秋山太郎 事例発表とグループ討議 64名
3	種類マ 日講 概 参加者数	学外研修会参加 「グローバル企業の英語力強化」、「大学淘汰時代のブランド戦略」 11月10日 株式会社内田洋行主催 大学実践ソリューションセミナー (株)楽天での社内公用語を英語にしている理由、中小規模大学が生き残るため の重要課題と戦略 1名を派遣
4	種類 テロ時 講概要 参加者数	<b>T講習会</b> 「クラウドコンピューティングの活用講座」 2012年3月1日、14日 株式会社プロンプト研修企画課長酒井葉子氏(インストラクター) 教材作成・提供・共有のための一例として 17名、18名

2012年度		
	種類	学外研修会参加
	テーマ 日時 講師 概要 参加者数	学生が『自ら学ぶ場つくり』のために〜教育現場の現状から考える〜2012年6月1日 株式会社ラーニングバリュー主催 大学トップセミナー 第一部 学生の成長を促す教育力とは 第二部 自己理解を深めることで学びの意欲が高まるプロセスを体感する 4名(教員2名、職員2名)
	種類 テーマ 日講師 概加者数	
3	種類マ 日時師 歌加者数加者数	学外研修会参加 新任専任教員向けFD推進ワークショップ「大学教員の職能開発とFD」 8月8日~9日 社団法人日本私立大学連盟教育研究委員会主催 パネルディスカッション・グループ討議・ワークシート作成・模擬授業・懇親会 1名
4	種類 テロ時 講師 概加者数	新任者懇談会 私大連主催新任者研修参加報告 ・ ディスカッション 2012年11月21日 報告者:スポーツ健康学部助教 沖村多賀典 私大連主催新任者研修参加報告 ・ ディスカッション 12名
(5)	種類 テロ時 講師 概か 参	学外研修会参加 「グローバル人材育成と学部教育の質的転換」 2012年11月26日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・事例報告(グローバル化の取り組みと葛藤・留学を通じた人材育成) 3名
6	種類 テロ時 講 概要 参加者数	ICT講習会 「授業参加と学習データを意識したICT活用事例」 2013年2月14日、18日 経済学部教授 児島完二 ① ICTを使った授業マネジメント・授業参加と学習データの管理・ ② クリッカーアプリの活用・スマホ時代の到来・ ③ CCS2.0での学修支援システムの活用(準備・実践)・予習を前提とした講義・ 18名、11名
0	種類 テロ時 講師 概要 参加者数	<b>ワークショップ</b> 「学生を授業に参加させる私の工夫」 2013年3月5日 1. 経済学部講師 山下匡将 2. 商学部教授 松永公廣 3. スポーツ健康学部教授 山本 親 事例発表3件 ・ グループ討議 51名

2013年度		
	種類	ICT講習会
	テーマ	法学部対象CCS(学内ネットシステム)利用講習会
	日時	2013年5月8日
	講師	本学学術情報センター SE
	概要	シラバス・スタッフガイドの編集、履修者名簿作成、出席カードの利用
		授業アンケート所感入力の方法、その他のメニューの実践
	参加者数	9名
<u> </u>	種類	  講演会
	性知	<b>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b>
	テーマ	第二部「学生相談室を訪れる学生の特徴―かかわりの中から思うこと―」
	日時	2013年9月4日
		第一部 草野勝彦弁護士(本学顧問弁護士・理事)
	講師	第二部 村上麻己子カウンセラー(本学相談室相談員)
		第一部 学生との間のハラスメント事例を交えた学生との接し方、指導の留意点
	概要	第二部 本学相談室のカウンセラーによる、精神疾患や発達障害を持つ学生に
		対する理解と、指導の際の留意点について、事例を交えた報告
	参加者数	90名
		W. I Ib. A. /s. I
3	種類	学外研修会参加
	テーマ	新任専任教員向けFD推進ワークショップ「大学教員の職能開発とFD」
	日時	2013年8月7日~8日
	講師	一般社団法人日本私立大学連盟主催
	概要	パネルディスカッション・グループ討議・ワークシート作成・模擬授業・懇親会
	参加者数	1名
	イエルナ	
· (4/	神乳	新任者懇談会
•	種類ニュ	新任者懇談会 第一部 私大連主催新任者研修参加報告
	種類 テーマ	
	テーマ 日時	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日
	テーマ 日時 講師	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之
	テーマ日時講師概要	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション
•	テーマ 日時 講師	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション
	テーマ 日時 講師 概要 参加者数	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名
	テーマ 日講師 概か加 者数 種類	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b>
	テロ講概参 種類で 種類で	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 学外研修会参加 「学生が主体的に考える力を育てる」
	テ 日講概参 種テ日 関 で	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 学外研修会参加 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日
	テ 日講概参 種テ日講 マ サー カラ カラ カラ カラ カラ カラ マ カラ カラ マ カラ	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 学外研修会参加 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会
	テ 日講概参 種テ日講概マ オー 時師要加 類一時師要 者 マ 数	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム
	テ 日講概参 種テ日講 マ サー カラ カラ カラ カラ カラ カラ マ カラ カラ マ カラ	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム
<b>⑤</b>	テ 日講概参 種テ日講概マ オー 時師要加 類一時師要 者 マ 数	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種テ マ 者 マ 者 マ 者 マ 数</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 学外研修会参加 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 事例発表会 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種マ</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種テ日 で</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種テ マ 者 マ 者 マ 者 マ 数</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩 事例2 スポーツ健康学部准教授 中野貴博
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種テ日 で</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩 事例2 スポーツ健康学部准教授 中野貴博 事例1 「大学生によるICTを活用した魅力あるまちづくり
<b>⑤</b>	テ 日講概参 種テ日講概参 種テ日 講マ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩 事例2 スポーツ健康学部准教授 中野貴博 事例1 「大学生によるICTを活用した魅力あるまちづくり ー瀬戸市・名古屋市におけるゼミ活動を事例に一」
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種テ日 で</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩 事例2 スポーツ健康学部准教授 中野貴博 事例1 「大学生によるICTを活用した魅力あるまちづくり 一瀬戸市・名古屋市におけるゼミ活動を事例に一」 事例2 「周辺行政と連携した子どもの体力向上への取り組み
<b>⑤</b>	<ul><li>テ 日講概参 種テ日講概参 種テ日 講 概 一 時師要加 類一時師要加 類一時 師 要マ 者 マ 者 マ 数 数 数 数</li></ul>	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩 事例2 スポーツ健康学部准教授 中野貴博 事例1 「大学生によるICTを活用した魅力あるまちづくり 一瀬戸市・名古屋市におけるゼミ活動を事例に一」 事例2 「周辺行政と連携した子どもの体力向上への取り組み 〜学生と協働した地域への貢献〜」
<b>⑤</b>	テ 日講概参 種テ日講概参 種テ日 講マ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	第一部 私大連主催新任者研修参加報告 第二部 懇談会(グループディスカッション) テーマ:「授業」をどうデザインする 2013年11月6日 報告者:スポーツ健康学部講師 小林記之 大連主催新任者研修参加報告・ディスカッション 17名 <b>学外研修会参加</b> 「学生が主体的に考える力を育てる」 2013年11月29日 東海地区大学教育研究会主催 研究大会 基調講演・シンポジウム 1名 <b>事例発表会</b> 特色ある授業への試み 〜地域と連携した授業運営の取組〜 2014年3月3日 事例1 商学部准教授 伊藤昭浩 事例2 スポーツ健康学部准教授 中野貴博 事例1 「大学生によるICTを活用した魅力あるまちづくり ー瀬戸市・名古屋市におけるゼミ活動を事例に一」 事例2 「周辺行政と連携した子どもの体力向上への取り組み 〜学生と協働した地域への貢献〜」

## 資料10

# **■資格講座スケジュール** (2014年度)

		開始日				終了日			
公務員	公務員試験対策講座	5	月	7	日	З	月	10	B
	公務員試験対策講座(瀬戸キャンパス) ※瀬戸開講	5	月	14	П	3	月	11	日
	公務員試験対策講座専門試験対策	11	月	19	П	3	月	19	B
教員	教員採用試験対策講座 (さかえサテライト)			17	П	5	月	10	B
就職試験対策	マスコミ業界就職対策講座	O)	月	11	田	10	月	29	日
験対策	金融業界就職対策講座	10	月	22	日	11	月	26	日
	行政書士試験対策講座2013 (II)	5	月	7	日	11	月	8	日
	行政書士試験対策講座2014(I)	11	月	12	日	3	月	19	日
国家	宅地建物取引主任者試験対策講座	5	月	7	日	10	月	18	日
国家資格対策	通関士試験対策講座	5	月	7	日	10	月	1	日
策	旅行業務取扱管理者試験対策講座	5	月	7	日	10	月	8	日
	■Tパスポート試験対策講座	8	月	27	日	12	月	3	B
	ファイナンシャルプランニング技能検定試験2級対策講座	5	月	7	日	9	月	11	B
	二種証券外務員試験対策講座	10	月	22	日	12	月	10	日
金融・	販売士検定試験2級対策講座	6	月	18	日	9	月	18	В
販売・	日商簿記検定試験3級対策講座(11月試験コース)	8	月	26	日	11	月	12	В
会計	日商簿記検定試験3級対策講座(2月試験コース)	11	月	19	日	2	月	19	B
	日商簿記検定試験2級対策講座	6	月	4	日	11	月	12	B
医療	診療報酬請求事務能力認定試験対策講座	8	月	19	日	12	月	10	В
	ビジネス能力検定試験ジョブパス2級対策講座(7月試験コース)	5	月	7	日	7	月	2	日
	ビジネス能力検定試験ジョブパス2級対策講座(12月試験コース)	10	月	8	日	12	月	3	B
	秘書技能検定試験2級対策講座(6月試験コース)	5	月	7	日	6	月	18	В
	秘書技能検定試験2級対策講座(11月試験コース)	9	月	24	日	11	月	5	B
実務	TOE I C講座 (春期コース)	5	月	14	日	7	月	16	日
	TOE I C講座 (秋期コース)	10	月	8	日	12	月	10	日
	MOS WORD	8	月	19	日	8	月	28	日
	MOS EXCEL	9	月	2	日	9	月	11	日
	MOS POWERPOINT	9	月	16	日	10	月	15	日